

入郷遺跡

—町道 156・176 号線改良工事に伴う発掘調査報告書—

2023 年 3 月

公益財団法人和歌山県文化財センター



調査区全景（東上空から）



調査区全景（上空から）

序

入郷遺跡は、伊都郡九度山町に所在し、紀の川の支流である丹生川西岸の台地上に位置します。本遺跡は、縄文時代の石鏃やサヌカイト剥片が採集されたことで知られた散布地で、東西約 300 m、南北約 200 mの範囲に広がっています。

今回の発掘調査で、新たに中世の掘立柱建物跡や溝等の居住の痕跡が確認され、遺構の埋土から中国製青磁碗や白磁皿、滑石製石鍋等が出土しました。

縄文時代の散布地というだけでなく、中世においても周辺地域の人々の生活の広がりを考える上で貴重な調査成果を得ることができましたので、ここに調査成果を取りまとめ調査報告書を刊行いたします。この成果が当該地域の歴史を知るうえで一資料となれば、幸いに存じます。

最後となりましたが、発掘調査ならびに本書の作成にあたり、ご指導、ご助言をいただきました関係各位の方々、地元の方々に深く感謝申し上げます。

令和 5 年 3 月 15 日

公益財団法人和歌山県文化財センター

理 事 長 櫻 井 敏 雄

例言

1. 本書は、和歌山県伊都郡九度山町入郷に所在する入郷遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は町道156・176号線改良工事に伴うもので、発掘調査業務は令和3年度、出土遺物等整理業務は令和4年度に実施した。
3. 発掘調査及び出土遺物等整理業務は、九度山町の委託事業として和歌山県教育委員会（以下、「県教育委員会」という。）の指導のもと、公益財団法人和歌山県文化財センター（以下、「当センター」という。）が実施した。
4. 発掘調査業務及び出土遺物等整理業務に要した経費は、九度山町が負担した。
5. 現地調査業務に際し、各関係機関並びに近隣の方々から多大なご協力を得た。
6. 発掘調査業務及び出土遺物等整理業務にかかる体制は以下のとおりである。
発掘調査業務（令和3年度）及び出土遺物等整理業務（令和4年度）

事務局長（管理課長）	平林 照浩
埋蔵文化財課長	高橋 智也
発掘調査・出土遺物等整理業務	田之上 裕子
7. 遺構・遺物の写真撮影及び本書の編集・執筆は田之上が行なった。
8. 基本的に、調査区名、遺構名は発掘調査時のものを踏襲した。
9. 発掘調査業務及び出土遺物等整理業務で作成した実測図・写真・台帳等の記録資料は当センターが、出土遺物は県教育委員会が保管している。

凡例

1. 発掘調査及び出土遺物等整理業務は『財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006.4）に準拠して行った。
2. 発掘調査及び本書で使用した座標値は、平面直角座標系（平成14年国土交通省告示第9号）第VI系、標高は東京湾平均海面（T.P.+）の数値であり、単位はmを使用している。方位は、座標北（G.N.）を用いた。
3. 土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人 日本色彩研究所色票監修 小山正忠・竹原秀雄 編・著『新版標準土色帖』（2018年版）を使用した。
4. 遺構・遺物の縮尺は、各挿図に明記した。また、遺構・遺物写真等の図版縮尺については任意であり、統一していない。
5. 調査で使用した調査コードは、21-08・005（2021年度-伊都郡九度山町・入郷遺跡）で、記載資料はこのコードを用いて管理している。

本文目次

第1章 位置と環境 ……………	1	第3章 調査の方法 ……………	4
第1節 地理的環境 ……………	1	第1節 地区割の設定 ……………	4
第2節 歴史的環境 ……………	1	第2節 調査の手順 ……………	8
第2章 調査の経緯と経過 ……………	2	第4章 調査成果 ……………	8
第1節 調査にいたる経緯 ……………	2	第1節 基本層序 ……………	8
第2節 発掘調査の経過 ……………	3	第2節 調査の成果 ……………	8
第3節 出土遺物等整理作業の経過 ……	3	第5章 まとめ ……………	19

挿図目次

図1 周辺の遺跡位置図 ……………	1	図9 141溝・142土坑 平面図・土層断面図	13
図2 地区割図 ……………	4	……………	13
図3 調査区 全体図 ……………	5	図10 18土坑・58土坑 平面図・土層断面図	14
図4 東壁・南壁土層断面図 ……………	6	……………	14
図5 南壁土層断面図・土層注記 ……	7	図11 18土坑・58土坑 出土遺物実測図 ……	15
図6 第3層上面・第1～2層・第2層 出土遺物実測図 ……………	9	図12 その他の遺構土層断面図……………	16
図7 1掘立柱建物跡 平面図・ 土層断面図 ……………	10	図13 187溝・188溝 平面図・土層断面図 及び出土遺物実測図 ……………	17
図8 16土坑平面図・土層断面図 及び出土遺物実測図 ……………	13	図14 その他遺構内出土遺物実測図……………	18

表目次

表1 出土遺物観察表（土器） ……………	20	表2 出土遺物観察表（石器・石製品） ……	22
----------------------	----	-----------------------	----

写真図版目次

巻頭図版	上 調査区全景(東上空から)		
	下 調査区全景(上空から)		
写真図版 1	1. 調査区全景(東から)		2. 58土坑出土の土師器 羽釜(50)(南から)
	2. 南壁土層断面(中央部・南から)	写真図版 6	1. 32柱穴 石検出状況(西から)
	3. 南壁土層断面(西部・南から)		2. 141溝・142土坑 土層断 面(南から)
写真図版 2	1. 1掘立柱建物跡(北西から)		3. 179溝 土層断面(南から)
	2. 60柱穴(1掘立柱建物跡)土 層断面(南から)	写真図版 7	1. 187・188溝 完掘状況 (南から)
	3. 70柱穴(1掘立柱建物跡)土 層断面(西から)		2. 187・188溝 完掘状況 (西から)
写真図版 3	1. 35柱穴内 土師器皿出土 状況(南から)		3. 188溝 土層断面(西から)
	2. 29柱穴内 土師器皿出土 状況(東から)	写真図版 8	出土遺物
	3. 29柱穴 土層断面(南から)	写真図版 9	出土遺物
写真図版 4	1. 18・58土坑内 遺物出土 状況(北から)	写真図版10	出土遺物
	2. 18土坑内 瓦器椀出土状 況(南から)	本文写真 1	灯明皿検出状況
	3. 18・58土坑 完掘状況(北から)	本文写真 2	現地説明会風景
写真図版 5	1. 調査区西部全景(西から)	本文写真 3	出土遺物洗浄作業
		本文写真 4	土器実測作業
		本文写真 5	デジタルトレース作業

第1章 位置と環境

第1節 地理的環境

入郷遺跡(5)は、伊都郡九度山町の北部にある。河岸段丘に沿って流れる紀の川の支流である丹生川西岸の中位河岸段丘である台地の突端部に位置する。

紀の川は、奈良県の大台ヶ原に水源を発する一級河川で、中央構造線に沿って形成された構造谷の間を西流して、和歌山平野を通過して紀伊水道に注いでいる。北側を和泉山地、南側を紀伊山地に挟まれた、狭小な谷間に紀の川が流れ、両岸に河岸段丘を形成しており、原始・古代からそれらの段丘の突端部に人々が居住した痕跡が確認されている。

第2節 歴史的環境 (図1)

原始・古代から続く人々の生活域は、紀の川の氾濫原を避けて、狭小な低位段丘や中位段丘上に拠点を求めた。戦国時代には、段丘上や山塊の頂を利用した山城が築かれている。

旧石器時代 紀の川上流域での生活域はごく希薄な状態である。

縄文時代 散布地である当遺跡以外、周辺で居住遺構は確認できていないが、橋本市の芋生小島遺跡・市脇遺跡、伊都郡かつらぎ町の洪田遺跡・船岡山遺跡等には居住の痕跡が認められる。



図1 周辺の遺跡位置図

- 1 真田古墳 3 慈尊院中小路地先遺跡 4 慈尊院II遺跡 5 入郷遺跡
8 岡氏居城跡 9 真田屋敷跡 10 榎ノ尾砦跡

出典：和歌山県埋蔵文化財包蔵地地図

(遺跡番号は和歌山県埋蔵文化財包蔵地地図による)

<https://wakayamaken.geocloud.jp/webgis/?z=15&ll=34.225%2C135.166&t=gsi&mp=4>

弥生時代 橋本市の血縄遺跡・上田遺跡・市脇遺跡・名古屋Ⅲ遺跡・高尾遺跡、かつらぎ町の佐野遺跡・船岡山遺跡等で集落跡が確認されている。大和・和泉・河内との文化交流が搬入された土器等の調査成果からみられる。

古墳時代 当遺跡と同じく、紀の川左岸に位置する慈尊院Ⅱ遺跡(4)で竪穴建物跡が確認されており、土師器や須恵器が出土している。本遺跡の北方、丹生川を挟んだ対岸の段丘上に真田古墳(1)があり、昭和28年の調査で横穴式石室をもつ円墳であることが確認され、現在も石室が残存している。

古代 奈良に都のあった7～8世紀では、紀の川筋は南海道の主要な道であり、伊都・那賀郡の境にある妹山と背山(兄山)は、畿内と畿外の境界であったとされる。

中世 当遺跡から西方の谷を挟んだ尾根の中腹には、岡氏居城跡(8)がある。本遺跡の北方、丹生川を挟んだ対岸には、真田昌幸・信繁親子が幽閉された真田屋敷跡(9)がある。

近世 紀の川の河岸から河床に位置する慈尊院中小路地先遺跡(3)と慈尊院Ⅱ遺跡(4)では、近世の堤防遺構が地表面で確認されており、結晶片岩を積んだ堤防や河岸に沿った土塁状の高まりがみられる。慈尊院Ⅱ遺跡の北東には下乗石建立跡があり、下乗石建立跡の西方、慈尊院Ⅱ遺跡の北方には、史跡高野参詣道町石道の一部として指定されている嵯峨浜五輪塔石塔がある。

第2章 調査の経緯と経過

第1節 調査にいたる経緯

九度山町により伊都郡九度山町入郷地内において町道156・176号線改良工事が計画され、その予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である「入郷遺跡」に該当することから、令和3年3月24日付け九建第190号で九度山町長から和歌山県教育委員会(以下、「県教育委員会」という。)へ文化財保護法第94条に基づく埋蔵文化財発掘の通知が提出された。これを受けて県教育委員会によって確認調査が実施され、その成果に基づいて県教育委員会より九度山町教育委員会へ事業地内において埋蔵文化財の記録保存調査が必要である旨の通知が平成31年3月25日付け文第03250007号でされた。

また、確認調査により、遺跡範囲外の西側において埋蔵文化財の展開が確認されたことから、文化財保護法第95条、和歌山県文化財保護条例第27条及び同施行規則第16条第5項の規定に基づき、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更が令和3年度に実施された。

令和3年11月25日付け九建第133号で九度山町長から県教育委員会に記録保存目的の本発掘調査の依頼があった。これを受けて令和3年11月30日付け文第11300001号で県教育委員会より公益財団法人和歌山県文化財センター(以下、「当センター」という。)に実施計画書提出依頼があり、令和3年12月14日付け和文セ第281号で実施計画書を県教育委員会教育長及び九度山町長へ提出した。その後、令和3年12月15日付け文第11300001号の



写真1 灯明皿検出風景

2で県教育委員会より発掘調査の実施について依頼があった。これに基づき、当センターと九度山町は、令和3年12月22日付けで「町道156・176号線改良工事に伴う入郷遺跡発掘調査業務」として九度山町と契約を締結して町道改良工事予定地のうち調査対象484.0㎡において記録保存を目的とした本発掘調査を行った。

なお、発掘調査は県教育委員会指導の下、令和4年1月31日から令和4年4月16日にかけて実施した。

第2節 発掘調査の経過

契約後、当センターにおいて、和歌山県地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第55条第1項及び県教育委員会の事務処理の特例に関する条例第2条に基づき、令和3年12月24日付け和文セ第297号で和歌山県護法第92条第1項の規定に基づく発掘調査届出書を九度山町教育委員会を經由して、県教育委員会に提出した。

発掘調査は、当センターが「町道156・176号線改良工事に伴う入郷遺跡発掘調査業務」として、九度山町より委託を受けて実施した。発掘調査にあたっては「町道156・176号線改良工事」について受託業者である紀伊建設株式会社から、重機と掘削作業員の提供を受けた。

令和4年4月16日に現地説明会を行い、周辺住民ほか42名の参加をいただいた。



写真2 現地説明会風景

第3節 出土遺物等整理事業の経過

発掘調査で出土した遺物は、コンテナ(28ℓ/箱)で13箱である。出土遺物は、須恵器、土師器、瓦器、中国製磁器、石器、石製品等がある。

整理事業として、令和4年10月より遺物の注記、登録、土器の接合・補強、復元、出土遺物の実測、遺構・出土遺物の実測図面のデジタルトレースを行った後、挿図を作成した。遺物の補強作業の後、遺物の写真撮影を行った。各遺構と出土遺物を選出し、写真図版を作成した。以上の作業と原稿執筆を経て、令和5年3月に報告書を刊行した。



写真3 出土遺物注記作業



写真4 土器実測作業

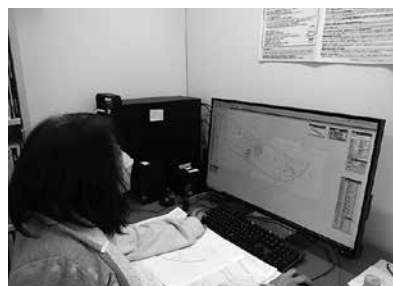


写真5 デジタルトレース作業

第3章 調査の方法

第1節 地区割の設定 (図2)

調査区の地区割は平面直角座標系(平成14年国土交通省告示第9号)第VI系を使用し、入郷遺跡を網羅する北東に基点($X=-189,000\text{m}$ 、 $Y=-40,000\text{m}$)を設け、その点から大区画・小区画を設けて区割を行った。大区画は基点をA1地点と定めて、西方向へ100mごとにB、C、D・・・、南方向に2、3、4・・・という軸を設定した1辺100m四方の区画で、北東隅の地区名を用いてA1、C3などと呼称する。大区画の北東隅をa1地点として、そこから4mずつ西方向へb～y、南方向へ2～25とそれぞれの方向に25分割し、一辺4mの正方形区画を小区画とする。小区画は北東隅の地区名からa1区～y25区と呼称する。地区名は、大区画-小区画(A1-a1区など)で表す。今回の調査区は、F8区、G8区の範囲内に相当する。

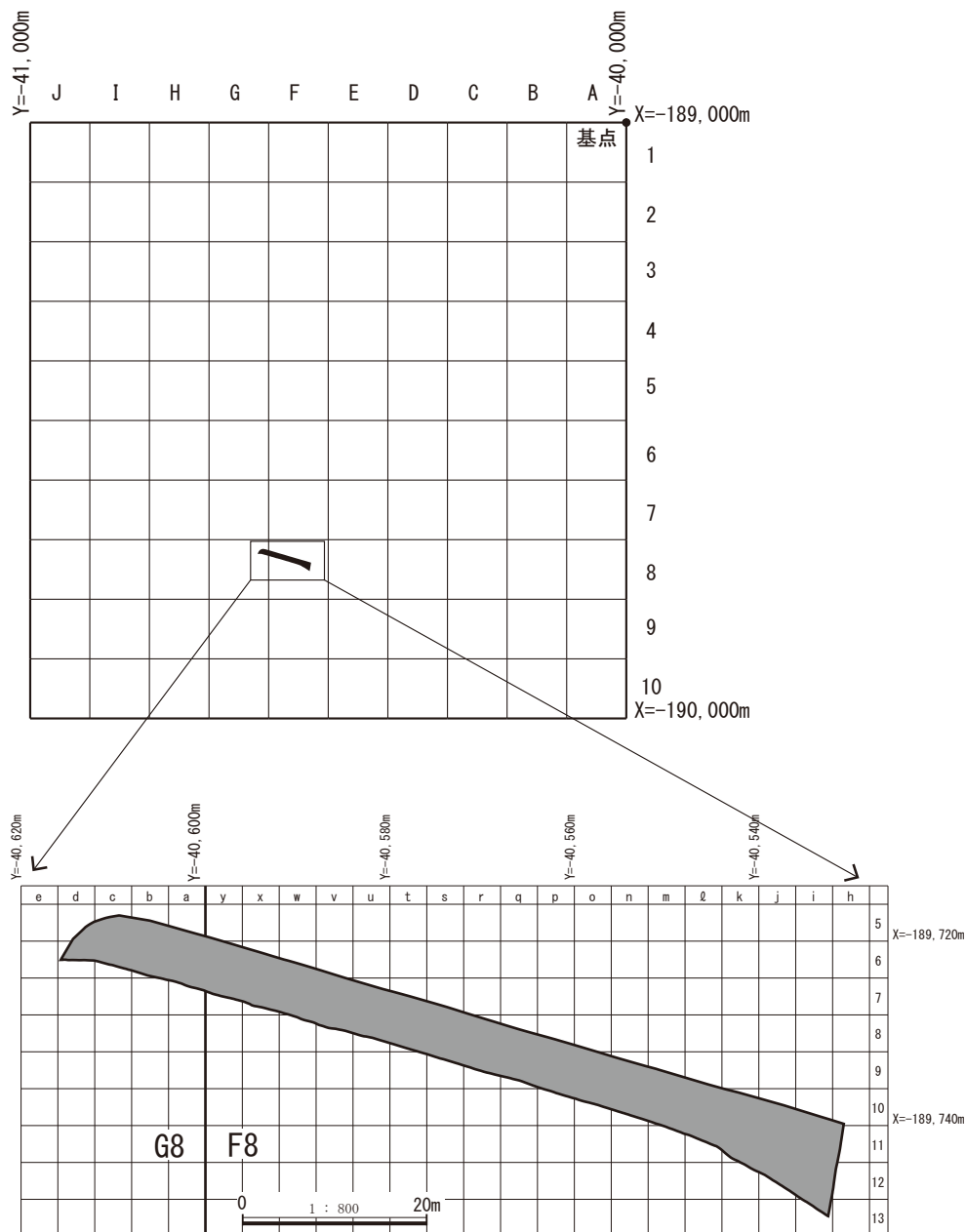


図2 地区割図

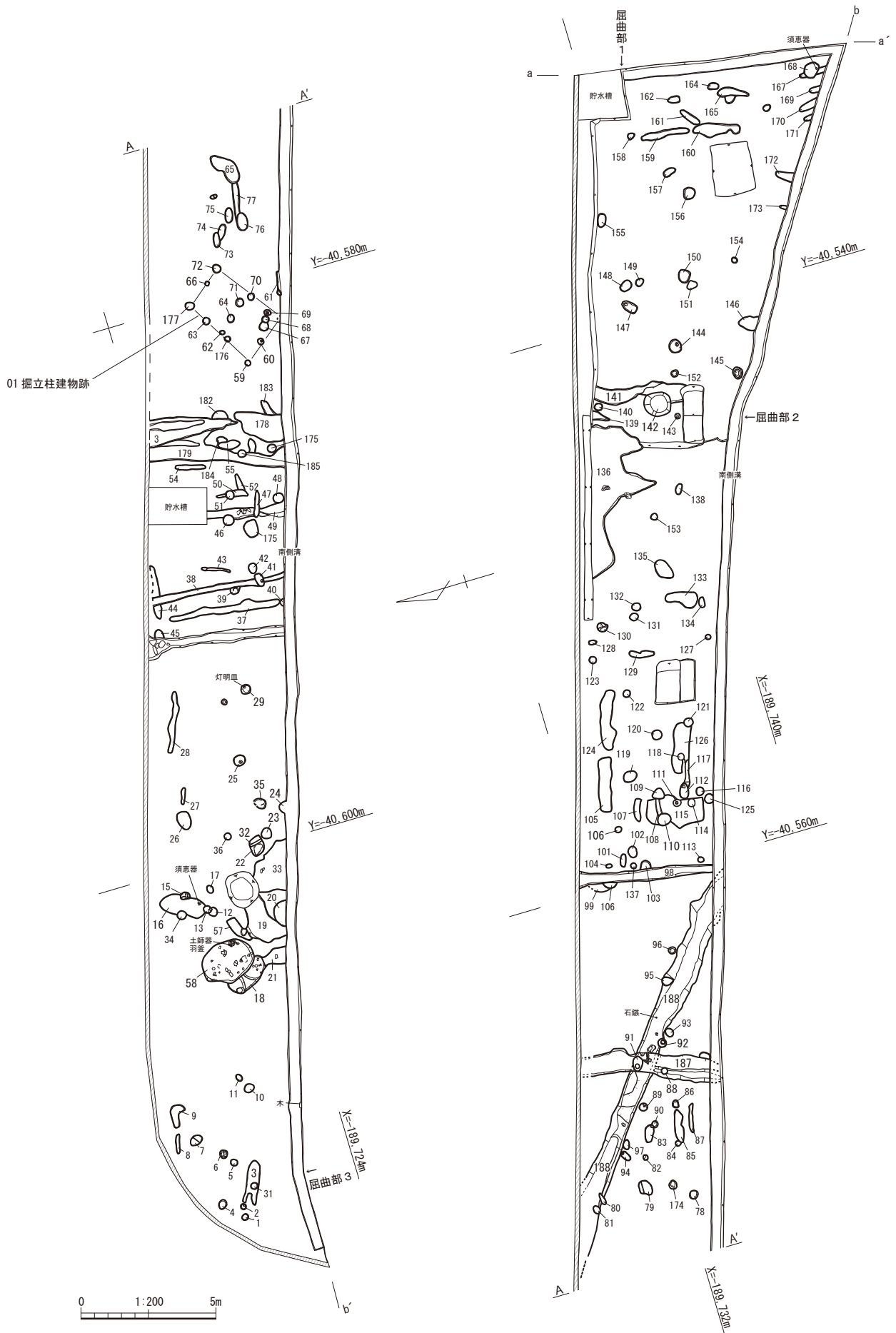
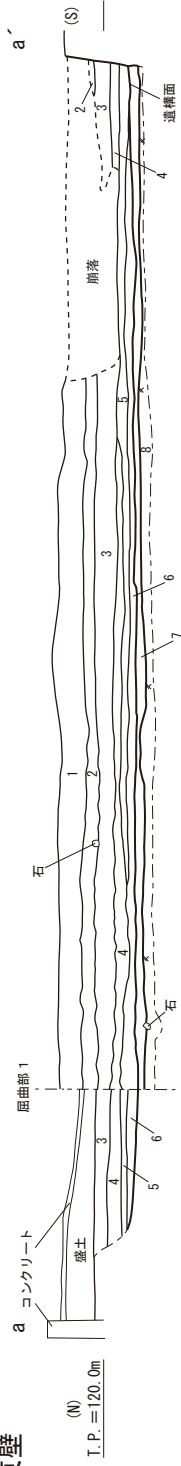


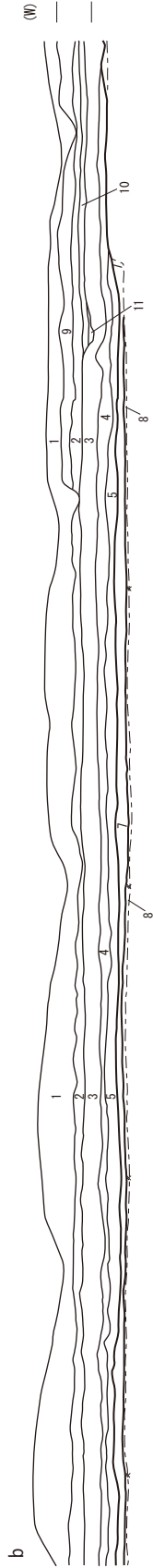
図3 調査区 全体図

東壁



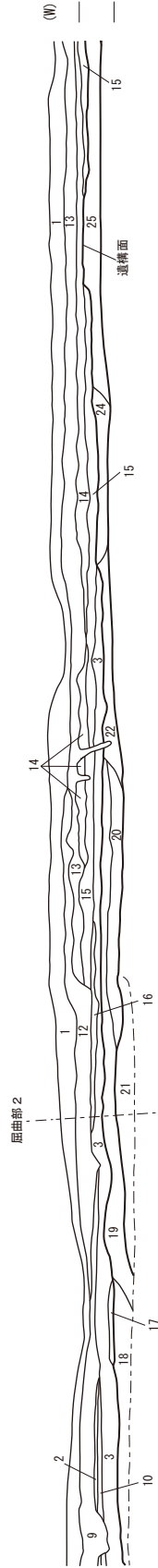
(N)
I.P. = 120.0m

南壁

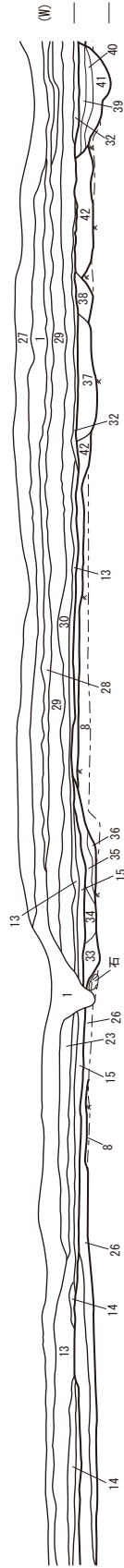


(E)
I.P. = 120.3m
I.P. = 120.0m

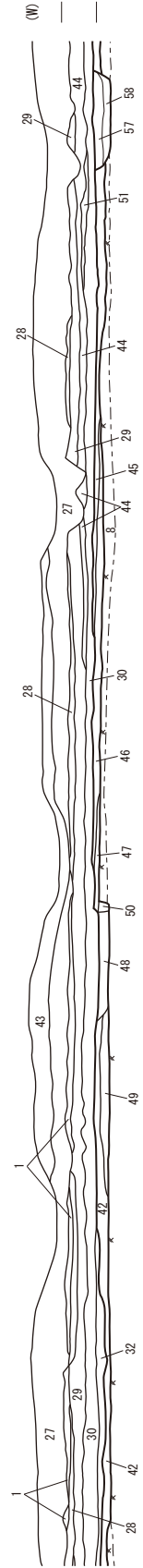
図4 東壁・南壁土層断面図



(E)
I.P. = 120.3m
I.P. = 120.0m



(E)
I.P. = 120.3m
I.P. = 120.0m



(E)
I.P. = 120.6m
I.P. = 120.3m



* 図4・5の土層注記は共通

南壁

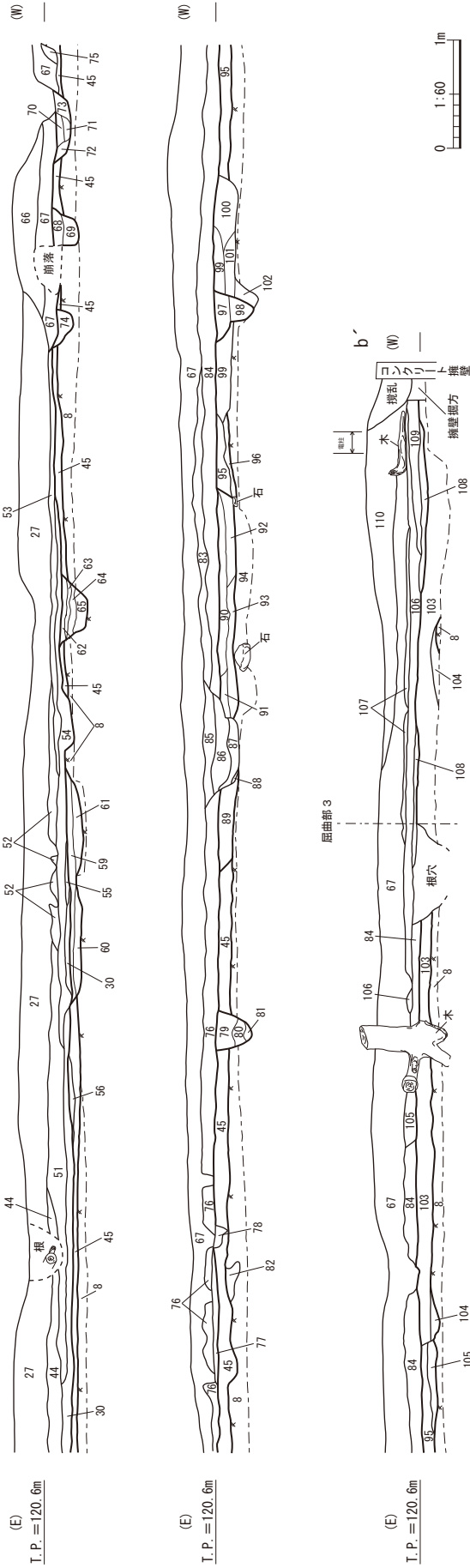


図5 南壁土層断面図・土層注記

- 1 2.5/5分黄褐粘質シルト+細砂(耕作土)
- 2 10R5/4に黄褐粘質シルト+粗砂(耕作土) Mn少量・Fe多く含む
- 3 10R6/3に黄褐粘質シルト+粗砂 Mn少量・Fe多く含む
- 4 10R5/4に黄褐粘質シルト+粗砂 Mn+Fe少量含む
- 5 10R5/6黄褐粘質シルト+粗砂 Mn+Fe(全体) 灰・焼土・土層片含む
- 6 10R5/4に黄褐粘質シルト+粗砂 Mn+Fe(縦方向に灰層)
- 7 10R5/4に黄褐粘質シルト+粗砂 Mn+Fe(縦方向に灰層)
- 8 10R5/4に黄褐粘質シルト+粗砂 Mn+Fe(全体)
- 9 2.5/4分オリーブ褐粘質シルト+粗砂 Mn+Fe含む(地山)
- 10 10R4/4粘質シルト+粗砂 Mn少量含む(耕作土)
- 11 10R5/4に黄褐粘質シルト+粗砂 Mn少量含む
- 12 2.5/4分オリーブ褐粘質シルト+粗砂 Mn少量含む(耕作土)
- 13 2.5/5分黄褐シルト+粗砂 Mn含む(耕作土)
- 14 10R5/4に黄褐粘質シルト+粗砂 Mn少量含む(耕作土)
- 15 10R5/6黄褐粘質シルト+粗砂 Feや多く・Mn少量含む(灰土)
- 16 10R4/4に黄褐粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む
- 17 10R5/4に黄褐粘質シルト+粗砂 Mn少量含む
- 18 10R5/4に黄褐粘質シルト+粗砂 Mn・Fe含む
- 19 10R5/6黄褐粘質シルト+粗砂 Fe・Mn・灰含む
- 20 10R4/4粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む
- 21 10R5/4に黄褐粘質シルト+粗砂 Fe含む(地山)
- 22 10R5/4に黄褐粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む
- 23 2.5/5分黄褐粘質シルト(耕作土)
- 24 10R4/4に黄褐粘質シルト+粗砂 Mn縦方向に多く含む
- 25 10R4/3に黄褐粘質シルト Mn・Fe縦方向に含む
- 26 10R4/4粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む
- 27 2.5/4分オリーブ褐粘質シルト(耕作土)
- 28 10R4/4粘質シルト+粗砂 Fe含む(灰土)
- 29 10R5/4に黄褐粘質シルト+粗砂 Mn少量含む
- 30 10R4/4粘質シルト+粗砂 Fe含む(灰土)
- 31 2.5/6分黄褐粘質シルト+粗砂 Fe少量含む
- 32 10R5/3に黄褐粘質シルト+粗砂 Mn少量含む
- 33 10R5/3に黄褐粘質シルト Mn多く・Fe含む
- 34 10R6/4に黄褐粘質シルト Mnや多く含む(188溝)
- 35 10R5/3に黄褐粘質シルト Mnや多く含む(188溝)
- 36 10R4/4粘質シルト+粗砂 Fe・Mn少量含む(188溝)
- 37 10R5/3に黄褐粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む
- 38 10R5/3に黄褐粘質シルト Mnや多く含む
- 39 10R4/3に黄褐粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む
- 40 10R4/4粘質シルト+粗砂 Mn少量含む(187溝)
- 41 10R4/3に黄褐粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む(187溝)
- 42 10R4/3に黄褐粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む(187溝)
- 43 2.5/5分黄褐粘質シルト(耕作土)
- 44 10R5/4に黄褐粘質シルト(耕作土)
- 45 10R4/4粘質シルト+粗砂 Mn・Fe含む(第3層)
- 46 10R4/3に黄褐粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む
- 47 10R4/4粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む
- 48 10R4/4粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む
- 49 10R5/4に黄褐粘質シルト Mnや多く含む
- 50 10R5/3に黄褐粘質シルト Mn縦方向に多く含む
- 51 10R5/4に黄褐粘質シルト 全体にFe含む(灰土)
- 52 10R4/4粘質シルト 全体にFe・灰含む
- 53 10R4/4粘質シルト 全体にFe・灰含む
- 54 10R5/4に黄褐粘質シルト φ1~2cmFe・Mn極少量含む
- 55 10R4/4粘質シルト Fe全体に含む(第3層)
- 56 10R5/4に黄褐粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む
- 57 10R4/3に黄褐粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む
- 58 10R5/4に黄褐粘質シルト+粗砂 φ1~2cmMn 上部に多く含む(61土坑)
- 59 10R5/4に黄褐粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む(61土坑)
- 60 10R5/4に黄褐粘質シルト+粗砂 Mn含む(178土坑・179溝)
- 61 10R4/4粘質シルト Mn多く含む(178土坑)
- 62 10R4/4粘質シルト Mnや多く・Fe少量含む(179溝)
- 63 10R5/4に黄褐粘質シルト Mn少量・焼土・灰含む(49溝)
- 64 10R5/4に黄褐粘質シルト+粗砂 Fe少量含む(49溝)
- 65 10R5/4に黄褐粘質シルト+粗砂 Mn含む(49溝)
- 66 2.5/5分黄褐粘質シルト(耕作土)
- 67 2.5/5分黄褐粘質シルト(耕作土)
- 68 2.5/4分オリーブ褐粘質シルト(第3層)
- 69 2.5/4分オリーブ褐粘質シルト(第3層)
- 70 2.5/4分オリーブ褐粘質シルト Mn・Fe含む
- 71 2.5/5分黄褐粘質シルト Mn・Fe含む
- 72 10R5/6黄褐粘質シルト Mn・Fe含む
- 73 2.5/4分オリーブ褐粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む(溝38)
- 74 2.5/5分黄褐粘質シルト Mnや多く含む
- 75 2.5/5分黄褐粘質シルト Mn・Fe少量含む
- 76 2.5/5分黄褐粘質シルト Mn縦方向に多く含む
- 77 10R5/4に黄褐粘質シルト Mn少量含む
- 78 10R5/3に黄褐粘質シルト Mn少量含む
- 79 10R4/3に黄褐粘質シルト Mn少量含む(耕作土)
- 80 10R4/3に黄褐粘質シルト φ1cmMnや多く・焼土・灰含む(21小穴)
- 81 10R4/4粘質シルト+粗砂 地山ブロック層(21小穴)
- 82 10R4/3に黄褐粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む
- 83 10R4/3に黄褐粘質シルト Mn含む
- 84 10R5/4に黄褐粘質シルト+粘質シルト Fe含む(灰土)
- 85 10R6/3に黄褐粘質シルト Fe・土器含む(近代の溝)
- 86 10R5/3に黄褐粘質シルト Mn・Fe含む(近代の溝)
- 87 7.5R6/6粘質シルト 風化礫含む(近代の溝)
- 88 10R5/3に黄褐粘質シルト Mnや多く含む
- 89 10R4/3に黄褐粘質シルト Mnや多く含む
- 90 10R4/3に黄褐粘質シルト Mn上部に多く含む(83土坑)
- 91 10R4/3に黄褐粘質シルト Mn・灰・焼土含む
- 92 10R5/4に黄褐粘質シルト+粗砂 φ1cmMn多く含む(20土坑)
- 93 10R4/3に黄褐粘質シルト Mn多く含む
- 94 10R5/4に黄褐粘質シルト Mn多く含む
- 95 10R4/2灰黄褐粘質シルト(83土坑)
- 96 10R4/2灰黄褐粘質シルト Mnや多く含む
- 97 10R4/3に黄褐粘質シルト+粗砂 Mn多く含む
- 98 10R4/3に黄褐粘質シルト+粗砂 Mn含む(21土坑)
- 99 10R4/2灰黄褐粘質シルト Mnや多く含む
- 100 10R4/3に黄褐粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む
- 101 10R4/3に黄褐粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む
- 102 10R4/2灰黄褐粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む
- 103 10R4/3に黄褐粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む
- 104 10R4/4粘質シルト+粗砂 Mnや多く含む(耕作土)
- 105 2.5/5分黄褐粘質シルト Mn少量含む
- 106 10R5/3に黄褐粘質シルト Mn・土器含む(近代の溝)
- 107 10R5/3に黄褐粘質シルト Mn・Fe含む(近代の溝)
- 108 10R5/3に黄褐粘質シルト Mnや多く含む
- 109 10R4/3に黄褐粘質シルト Mn含む
- 110 2.5/5分黄褐粘質シルト(耕作土)

* Fe=鉄分、Mn=マンガン、Mnの沈着を示す

* 図4・5の上層注記は共通

* 第3層

第2節 調査の手順

調査区の重機による掘削は、県教育委員会による確認調査の成果を参考に、基本層序の第1層耕作土と遺構面保護のため第2層床土のうち、遺構面上より0.10mまで行った。その後、人力により第2層床土を掘削し、第3層（マンガン沈着層）上面で、遺構の検出及び掘削を行った。遺構面は、現地表面より0.30mの下方で検出した。遺構は堆積状況が確認できるように半截を行い、土層堆積を写真撮影及び実測により記録した後、完掘した。写真撮影は、調査区全景写真については中判デジタルカメラ、調査区全景及び土層断面、個別遺構の写真については35mmフルサイズデジタルカメラを用いて行った。実測作業については、全体図は縮尺1/20、土層断面図や個別遺構図等は縮尺1/20で手測りによって図化した。

第4章 調査成果

第1節 基本層序（図4・5 写真図版1）

今回の調査地における基本層序は、県教育委員会の確認調査の成果を参考に、現地にて次のように大別した。

第1層：2.5Y4/3オリーブ褐色粘質シルト～2.5Y5/3黄褐色粘質シルト。近現代の耕作土。

第2層：10YR5/4にぶい黄褐色～10YR4/4褐色粘質シルト～粘質土で鉄分を多く含む。近代の耕作土の床土（遺物包含層）。

第3層：10YR5/3にぶい黄褐色～10YR4/4褐色粘質シルトで、径1～3cm礫や細砂を含み、マンガン粒が多く沈着する。上面が中世の遺構面であり、標高は、東側でT.P.+119.80m、西側でT.P.+120.60mである。

第4層：10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト。西から東に向かって大きく傾斜し、標高は、東側でT.P.+119.70m、西側でT.P.+120.60mである。無遺物層で地山層である。

第2節 調査の成果

調査成果（図3～14）

遺構 中世以降の掘立柱建物跡1棟と建物を構成していない柱穴群、土坑、溝等を確認した。

1 掘立柱建物跡（図7 写真図版2） 調査区中央やや西寄りのF8-u7・u8、t7・t8区に位置する。2間×2間の掘立柱建物で、60柱穴、59柱穴、62柱穴、177柱穴、66柱穴、72柱穴、70柱穴で構成される。南西隅の柱穴は調査区外になり、検出できなかった。柱間は、桁行で1.50～1.60m、梁行で0.80～1.30m、桁行方向はN-30°-Sである。柱穴の直径は0.20～0.40m、深さ0.06～0.28mである。なかには、柱根と考えられる痕跡が見られる柱穴もある。T.P.+120.30～120.40mで検出した。埋土からは中国製青磁碗片、土師器片が出土したが、細片のため図化できなかった。埋土は、柱根部分が褐色～黄褐色粘質土、掘方が褐色粘質土～にぶい黄褐色粘質シルトである。60柱穴は、径0.25m、深さ0.20mの掘立柱建物跡を構成する柱穴である。やや径が小さいが柱根と思われる痕跡があり、その埋土は褐色粘質土～にぶい黄褐色粘質シルトで、焼土と炭を含み、マンガンの沈着がみられる。70柱穴は、径0.25m、深さ0.25mの掘立柱建物跡を構成する柱穴である。埋土は黄褐色粘質土～明黄褐色粘質シルトで、上層で焼土

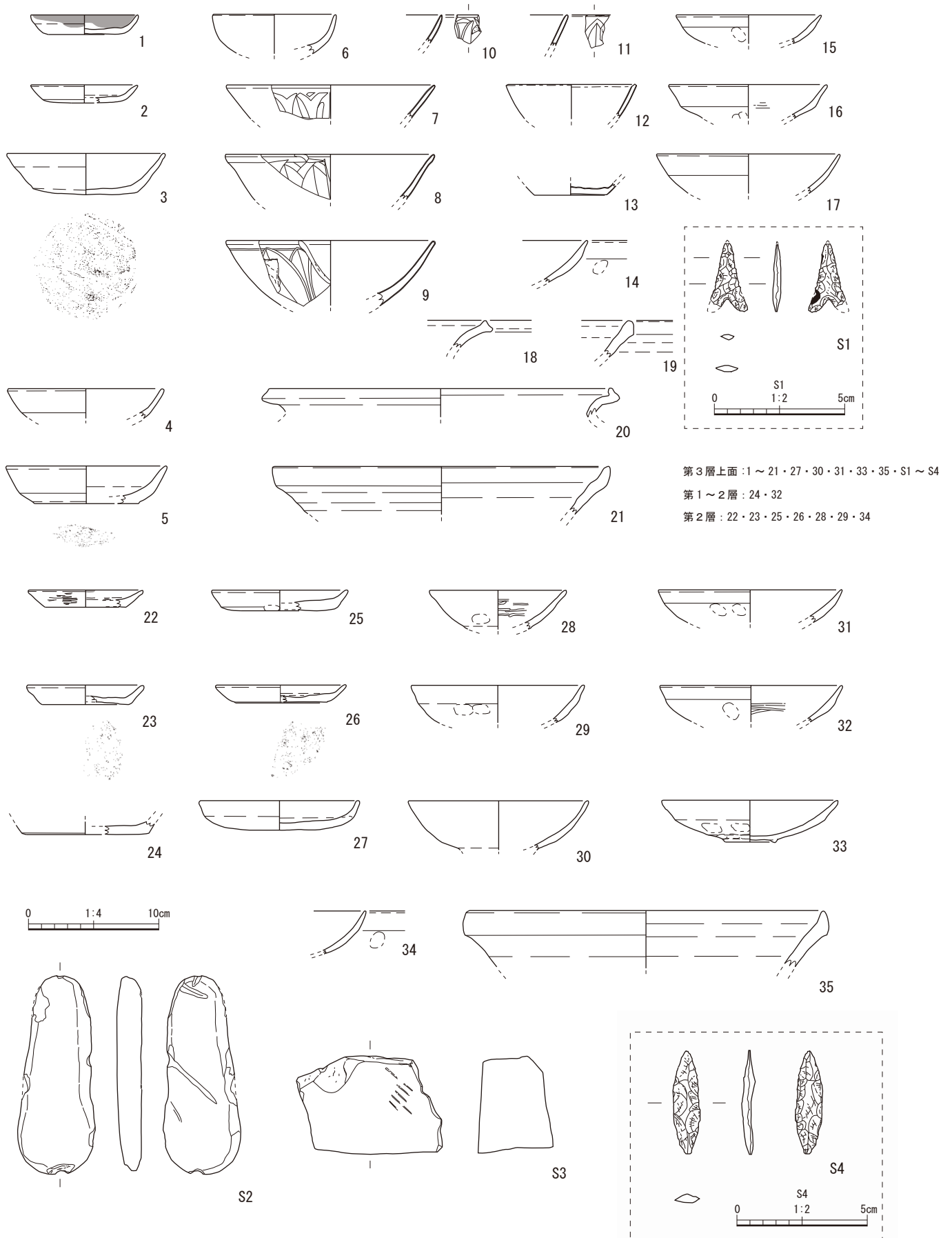
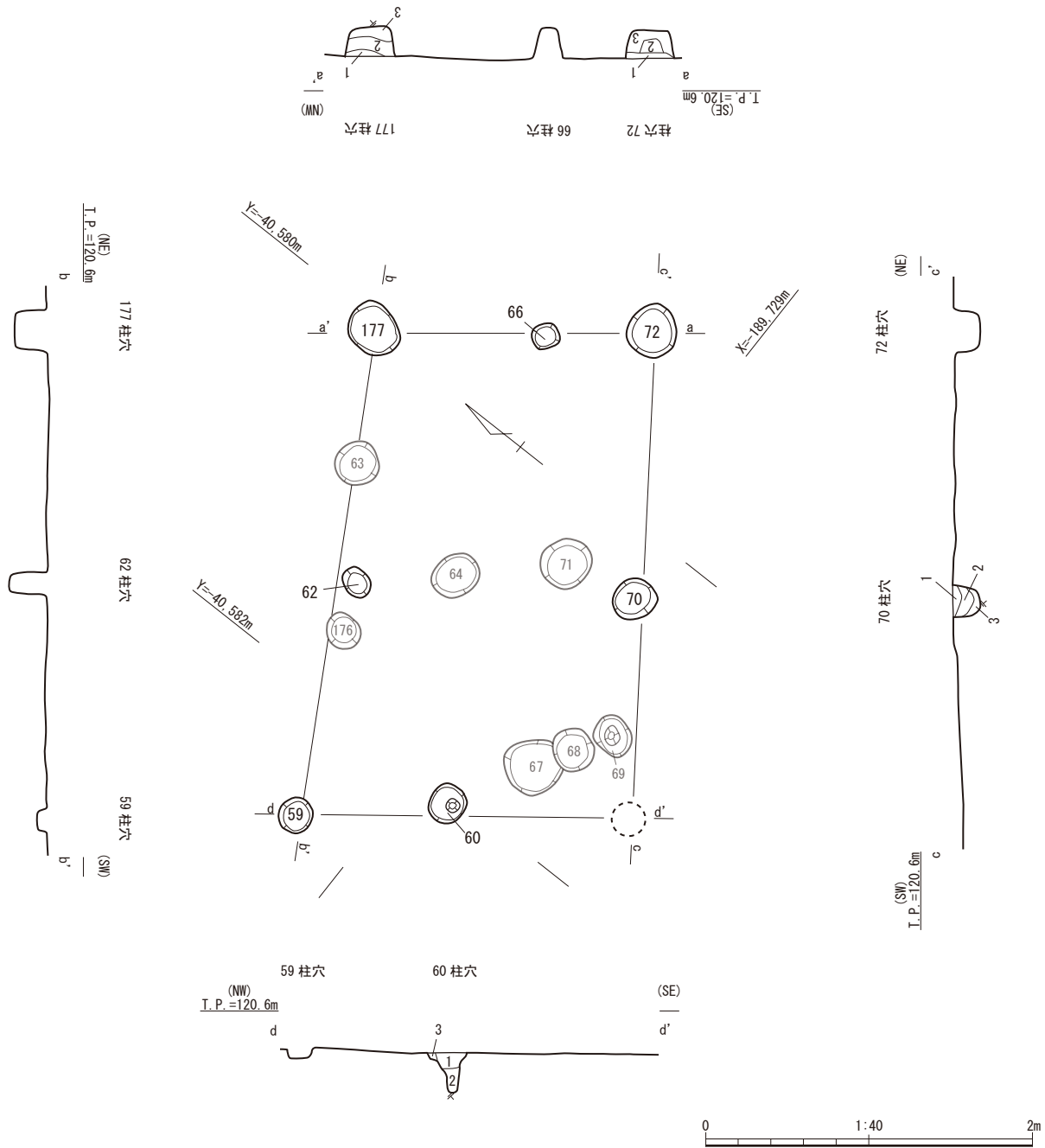


图6 第3層上面・第1～2層・第2層 出土遺物実測図



60柱穴

- 1 10YR4/4 褐 粘質土 マンガン・焼土・炭含む
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐 粘質シルト マンガン・炭含む
- 3 10YR4/4 褐 粘質土 鉄分・焼土含む

70柱穴

- 1 10YR5/6 黄褐 粘質土 粗砂・マンガン・焼土含む
- 2 10YR6/6 明黄褐 粘質シルト 細砂・鉄分含む
- 3 10YR6/6 明黄褐 粘質シルト 粗砂・鉄分含む

72柱穴

- 1 10YR5/4 にぶい黄褐 粘質土 粗砂・鉄分含む
- 2 10YR5/6 黄褐 粘質土+細砂 マンガン少量・鉄分含む
- 3 10YR5/8 黄褐 粘質シルト マンガン・鉄少量含む

177柱穴

- 1 10YR5/4 にぶい黄褐 粘質土 マンガン・焼土含む
- 2 10YR4/6 褐 粘質シルト 多くのマンガン・炭・焼土含む
- 3 7.5YR5/4 にぶい褐 粘質シルト 地山ブロック含む マンガン・鉄少量含む

図7 1掘立柱建物跡 平面図・土層断面図

を含み、マンガンの沈着がみられる。柱根の痕跡はみられず、柱は抜き取られたとみられる。

その他、掘立柱建物を構成すると確認できなかったが、柱根と思われる痕跡がある柱穴や遺物が出土した柱穴について記述する。

23柱穴 (図12・14) 調査区西のF 8-y 7区に位置する。径0.20m、深さT.P.+120.60mで検出した。埋土は、上層がにぶい黄褐色粗砂混じりの粘質土に多くの炭と焼土を含む。下層は、上層よりも砂粒が小さく、炭がやや少ない。マンガンの沈着がみられる。土師器皿(55)と瓦器椀(68)が出土した。

29柱穴 (図12・14 写真図版3) 調査区西、F 8-x 7区に位置する。径0.35m、深さ0.34mの遺構で掘方の底部近くの東壁際で土師器皿(63)を灯明皿として使用したものが完形で出土した。柱根痕跡部分がにぶい黄橙色シルト、掘方がにぶい黄橙色粘質土である。T.P.+120.20mで検出した。

32柱穴 (図12 写真図版6) 調査区西、G 8-a 6・7～F 8-y 6・7区に位置する。東西径0.60m、南北径0.50m、掘方の西寄の上部が長さ0.30mほどの平坦な石を据えている。柱の据える際の根石とした可能性がある。埋土は、上層が暗褐色粘質土、中層がにぶい黄褐色粘質土、下層は、灰黄褐色粘質土に細砂から粗砂が混じる。焼土と炭を含み、上・中層にはマンガンの沈着がみられる。T.P.+120.60mで検出した。

35柱穴 (図12・14 写真図版3) 調査区西、F 8-y 7区に位置する。南北径0.45m、東西径0.34m、深さ0.13mの遺構で、ほぼ完形の土師器皿(62)が横倒しの状況で出土した。埋土は、柱根痕跡部分が砂混じりのにぶい黄褐色粘質土～褐色粘質シルト、掘方が灰黄褐色～にぶい黄褐色粘質土である。T.P.+120.30mで検出した。

88柱穴 (図12・14) 調査区中央、F 8-q 9区に位置する。径0.23m、深さ0.24mの柱穴である。柱根の痕跡として褐色～にぶい黄褐色粘質土がみられる。埋土から土師器皿(54)と瓦器椀(65)が出土している。T.P.+120.4mで検出した。

92柱穴 (図12 写真図版5) 調査区中央、F 8-q 9区に位置する。T.P.+120.4mで検出した。径0.23m、深さ0.35mの平面形が円形の柱穴である。径0.15mの柱根らしきの痕跡を検出した。柱根の痕跡は鉄分を多く含む黄褐色からにぶい黄褐色粘質土、掘方は鉄分を多く含むにぶい黄色シルトとオリーブ褐色粘質シルトである。

106柱穴 (図12・14) 調査区中央、F 8-o 9区に位置する。T.P.+120.40mで検出した。径0.20m、深さ0.20mの平面形がやや楕円形の柱穴である。柱根の痕跡はみあたらず、埋土は、上層がにぶい黄色粘質土、下層がにぶい黄褐色粘質シルトである。瓦器椀(69)が出土している。

110柱穴 (図12・14) 調査区中央、F 8-o 9区に位置する。T.P.+120.40mで検出した。径0.40m、深さ0.15mの平面がやや楕円形の柱穴である。土師器皿(53)が出土している。115土坑が埋没したのち掘削された。

16土坑 (図8) 調査区西のG 8-a 6区に位置する。南北長1.70m、東西幅0.70m、深さ0.30mの平面が長楕円形の遺構である。T.P.+120.50mで検出した。遺構の北側上層で「C」の字状の焼土の集中が見られ、遺構の上層全体に炭と灰が混じった土が堆積し、下層に炭と灰が混じった粘質シルトが堆積しているが、底部と壁面に焼成痕がみたらない。カマドと推定できるが、カマドとしては焼成部分が少ないため、焼土や炭等を多く含む土坑とした。埋土は、上層が

炭混じりのにぶい黄橙色粘質シルト、下層が炭や焼土、灰混じりのにぶい黄褐色粘質シルトである。土師器の細片と須恵器が出土している。

18土坑 (図10・11 写真図版4・8) 調査区西、G8-a6・b6区に位置する。南北径1.50m、東西径0.80m、深さ0.90~0.15mの平面が長楕円形の土坑である。T.P.+120.60mで検出した。鎌倉時代から室町時代の土師器皿(36)、瓦器椀(46・48)、東播系須恵器捏鉢(51)等が出土した。18土坑が埋没後に58土坑が掘削されたと考えられる。埋土は、上層が粗砂混じりのにぶい黄褐色粘質土、下層が粗砂混じりの灰黄褐色粘質土で、焼土と炭、灰が混じる。

58土坑 (図10・11 写真図版4・5・9・10) 調査区西、G8-a6・b6区に位置する、南北径2.00m、東西径1.40m、深さ0.25mの平面が楕円形の土坑である。18土坑の東側を削平している。T.P.+120.60mで検出した。埋土の上層と底部で土師器皿(37~40・43~45)、常滑焼壺(41・42)、土師器羽釜(50)、瓦器椀(47・49)、東播系須恵器捏鉢(52)、中国製の青磁碗、口縁端部の釉をはぎ取った口禿げの白磁皿(43)、温石に転用した滑石製石鍋(S5・S6)、砥石(S7・S8)等の石製品が出土した。羽釜型石鍋の口縁部から鏝部にかけての破片と底部片で、底径が口径の半分ほどになる時期のものと思われる。このことから鎌倉時代から室町時代の土坑と考えられる。埋土は、上層が細砂混じりのにぶい黄褐色粘質土、下層が細砂混じりの灰黄褐色粘質シルトである。焼土や炭、灰が混じり、全体的にマンガンの沈着がみられる。

18土坑と58土坑は、生活雑器である土師器皿、土師器羽釜片、瓦器椀等の破片が多く出土し、完形に近いものも多かった。土坑の底部と底部から0.10mほど上の地点で遺物の出土が多かった。廃棄土坑の可能性もある。

142土坑 (図9 写真図版6) 調査区東、F8-k10区に位置する。径0.90m、深さ0.42mの土坑である。T.P.+120.00~120.10mで検出した。埋土は、上層がにぶい黄褐色粘質土、下層が細砂~シルトがラミナを形成したにぶい黄褐色~黄褐色粘質シルトである。141溝が埋没した後、掘削された遺構と考えられる。土師器、瓦器等が出土したが、細片のため図化はできなかった。

3溝 (図14 写真図版10) 調査区西のG8-c5・6~d5・6区に位置する。長さ1.65m、幅0.45m、深さ0.20~0.60mである。西側が二股になって収束しており、東側も収束している溝である。T.P.+120.70mで検出した。埋土の上層は、にぶい黄橙色細砂から粗砂混じりのシルト、中層はにぶい黄褐色細砂混じりの粘質土、下層は褐色シルト~細砂混じりの粘質土である。上層から下層で、鉄分やマンガンの沈着がみられ、焼土や炭を含む。土師器皿(60)が出土した。

9溝 (図14 写真図版10) 調査区西のG8-c5区に位置する。長さ0.83m、幅0.25m、深さ0.03mの浅い溝である。東端が南方にほぼ直角に曲がる。T.P.+120.60mで検出した。埋土は、にぶい黄褐色粘質シルトに焼土や炭が混じり、マンガンの沈着がみられる。結晶片岩製の硯(S9)が出土した。

141溝 (図9 写真図版6) 調査区東、F8-k10・11区に位置する。残存長3.30m以上、幅0.30~0.50m、深さ0.80mの浅い溝である。T.P.+120.00mで検出した。調査区外である北側へ続くと思われる。土師器、瓦器等が出土した。埋土は細砂混じりのにぶい黄褐色粘質土である。

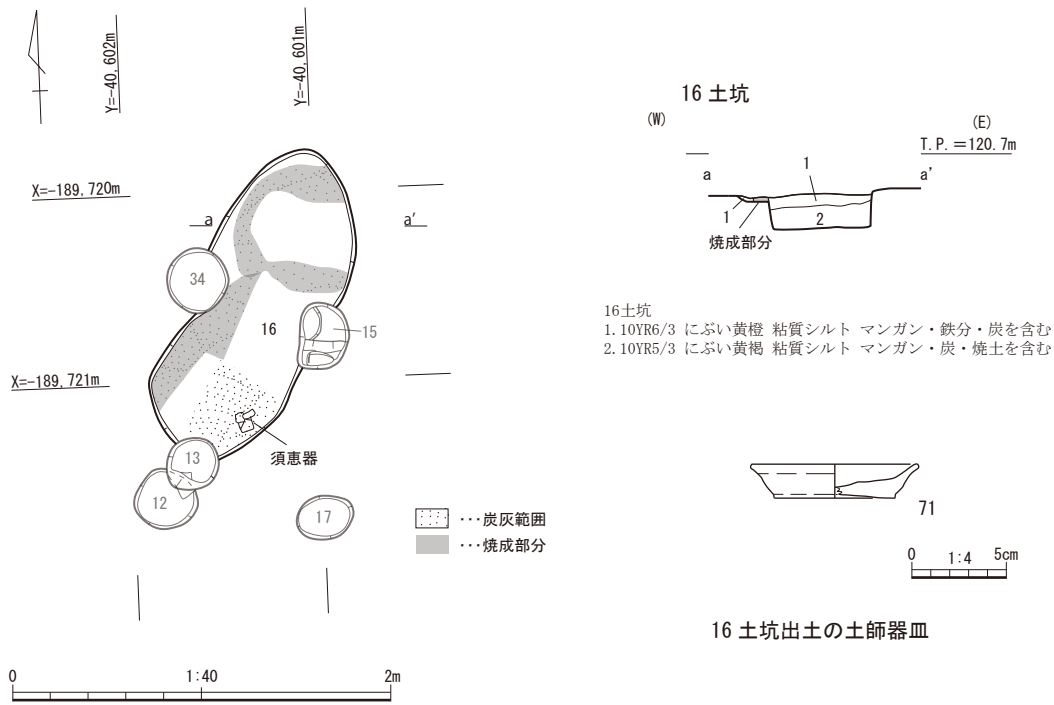


図8 16土坑平面図・土層断面図及び出土遺物実測図

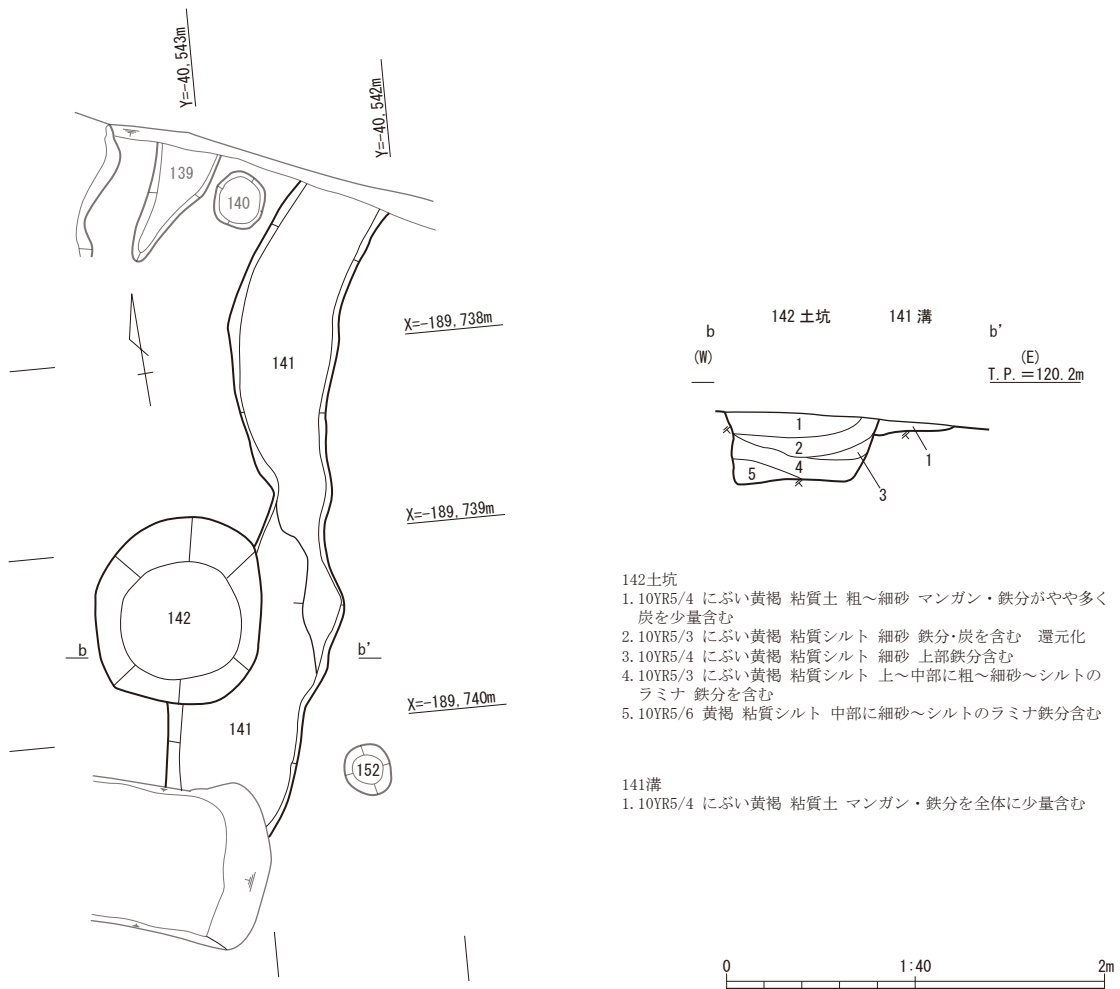
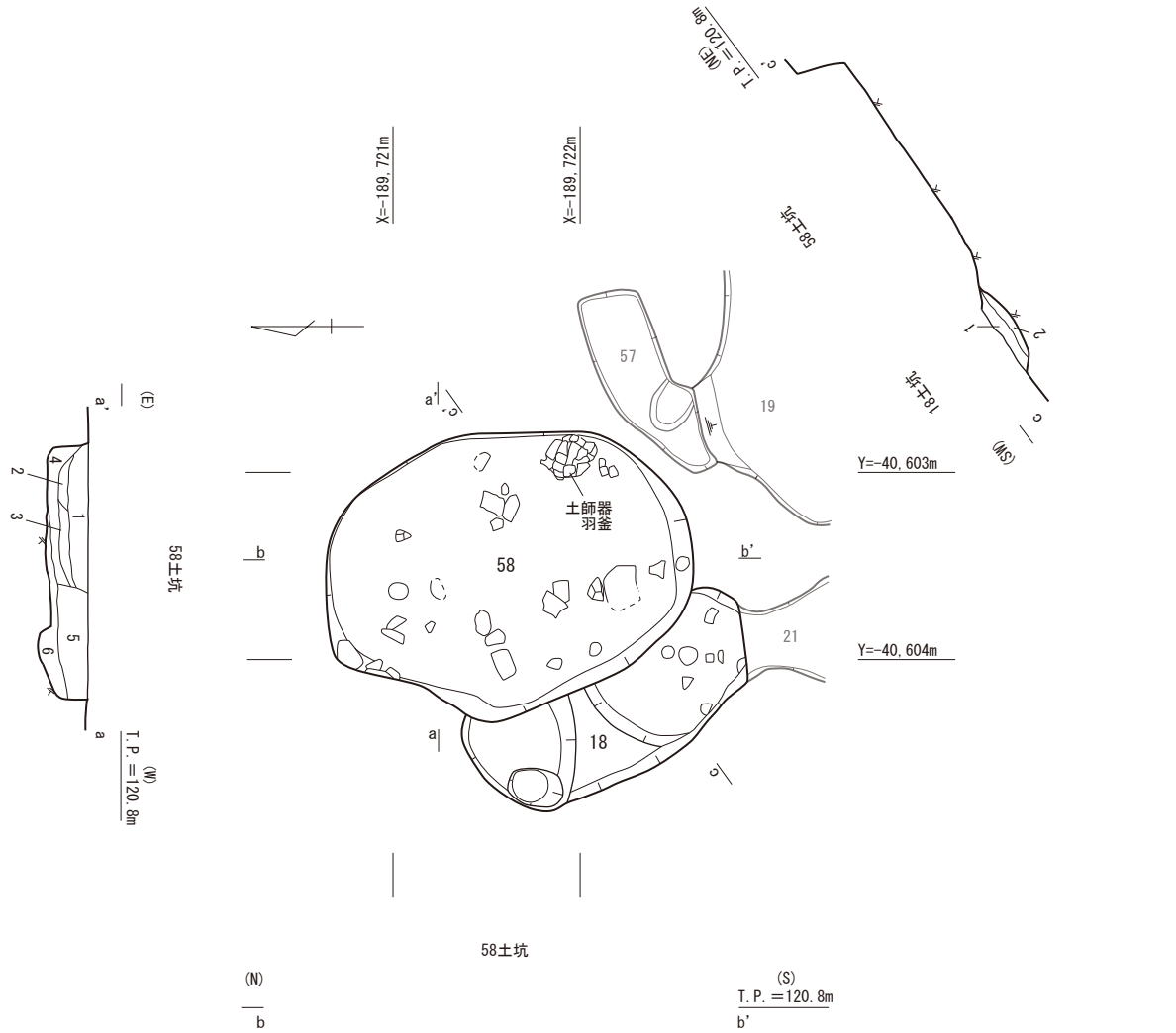


図9 141溝・142土坑 平面図・土層断面図



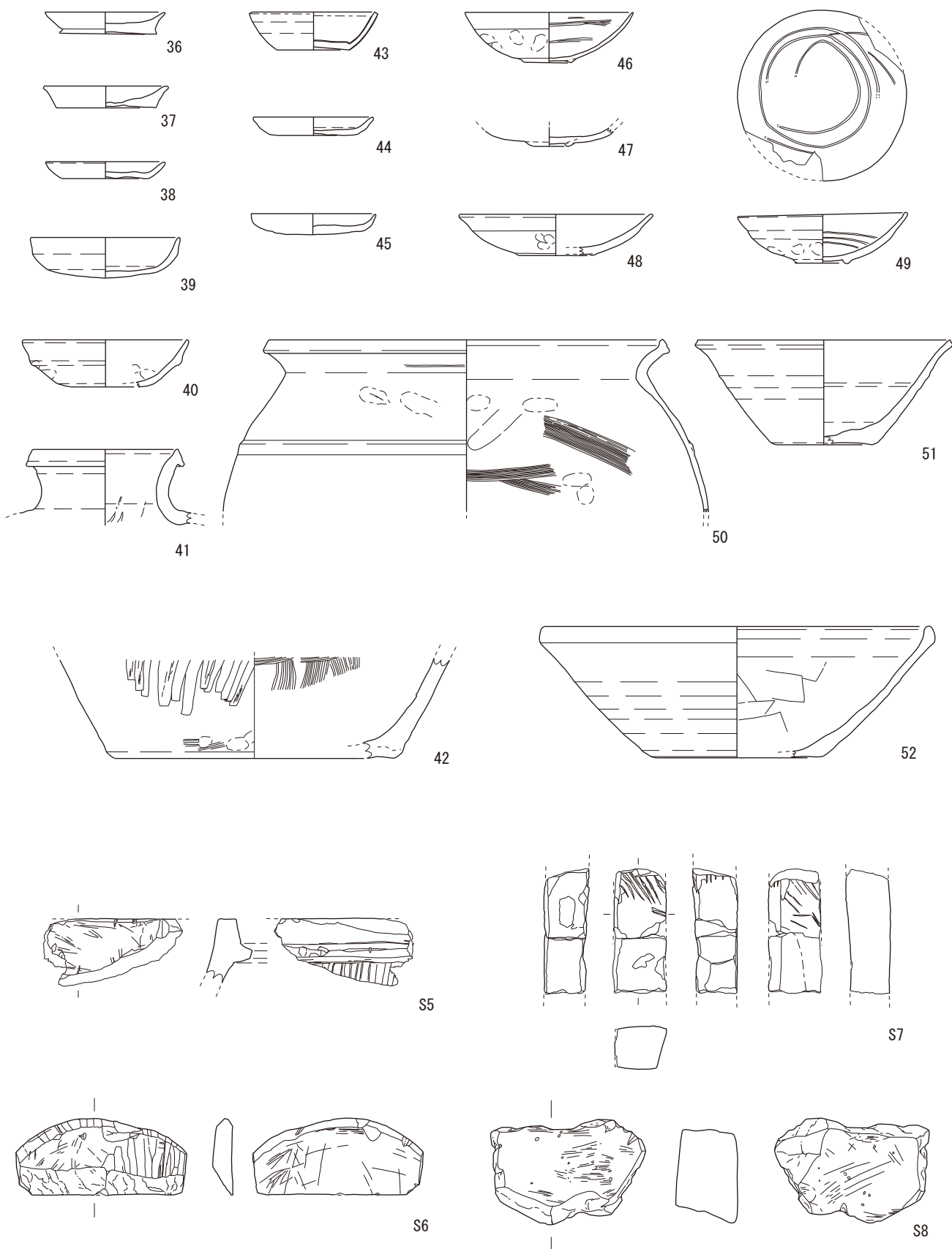
58土坑

1. 10YR5/4 にぶい黄褐 粘質土 細砂 焼土・炭・マンガンを多く含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐 粘質土 粗砂～細砂 焼土・炭をやや多くマンガン少量含む
3. 10YR5/3 にぶい黄褐 粘質土 粗砂 焼土・炭・地山ブロックを含む
4. 10YR6/4 にぶい黄橙 粘質土～シルト マンガン・焼土・炭・地山ブロックを含む
5. 10YR4/4 褐 粘質土 焼土多く、マンガン・炭をやや多く含む
6. 10YR5/2 灰黄褐 粘質シルト マンガン・焼土・炭を少量含む
7. 10YR6/3 にぶい黄橙 粘質シルト マンガン・焼土・炭・地山ブロックを少量含む
8. 10YR5/2 灰黄褐 粘質シルト マンガン・焼土多く炭をやや多く含む

18土坑

1. 10YR4/3 にぶい黄褐 粘質土 粗砂 焼土・炭を多く含む
2. 10YR5/2 灰黄褐 粘質土 粗砂 焼土・炭を多く含む

図 10 18土坑・58土坑 平面図・土層断面図



18 土坑 : 36 · 46 · 48 · 51

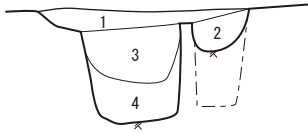
58 土坑 : 37 ~ 45 · 47 · 49 · 50 · 52 · S5 ~ S8

0 1:4 10cm

图 11 18 土坑 · 58 土坑 出土遺物実測図

3溝

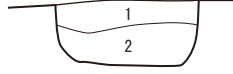
(S) (N) T.P. = 120.8m



- 1 10YR6/3にぶい黄橙シルト 粗～細砂 炭・焼土・マンガン・鉄分含む
- 2 10YR5/3にぶい黄褐粘質土+細砂 炭・マンガン・焼土・鉄分含む
- 3 10YR4/4褐粘質土+細砂 マンガン・炭・焼土含む
- 4 10YR4/6褐粘質土+シルト～細砂 マンガン・炭・焼土含む

23柱穴

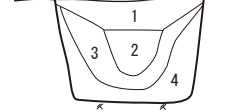
(W) (E) T.P. = 120.7m



- 1 10YR5/3にぶい黄褐粘質土+粗砂 マンガン・炭多・焼土含む
- 2 10YR4/3にぶい黄褐粘質土+細砂 マンガン・炭含む

29柱穴

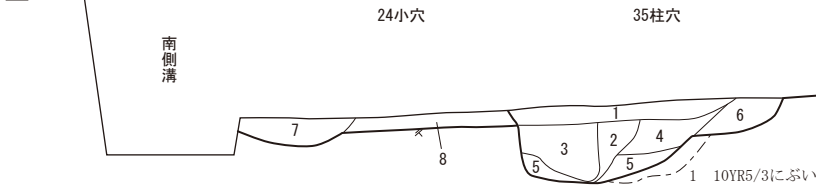
(N) (S) T.P. = 120.3m



- 1 10YR6/3にぶい黄橙シルト 上部に鉄分・マンガン まばらに含む
- 2 10YR7/3にぶい黄橙シルト 中部に鉄分を含む
- 3 10YR6/3にぶい黄橙粘質シルト 鉄分・マンガン含む
- 4 7.5YR5/4にぶい褐粘質シルト

24小穴・35柱穴

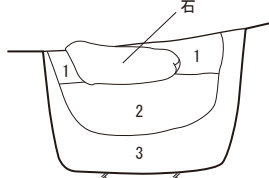
(S) (N) T.P. = 120.5m



- 1 10YR5/3にぶい黄褐粘質土+粗～細砂 炭・焼土・マンガン・鉄分含む
- 2 10YR5/4にぶい黄褐粘質土+粗砂 炭・焼土・マンガン含む(柱根)
- 3 10YR4/6褐粘質シルト+細砂 炭・焼土少・マンガン含む(柱根)
- 4 10YR4/2灰黄褐粘質土+細砂 炭・焼土・マンガン含む(掘方)
- 5 10YR4/3にぶい黄褐粘質土+シルト 炭・焼土・マンガン含む(掘方)
- 6 10YR5/4にぶい黄褐粘質土 炭・焼土・マンガン含む
- 7 10YR5/3にぶい黄褐粘質土 炭・焼土・マンガン含む
- 8 10YR5/2灰黄褐粘質土 炭・焼土 マンガン・鉄分含む

32柱穴

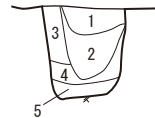
(S) (N) T.P. = 120.7m



- 1 10YR3/4暗褐粘質土+細砂 焼土・炭・マンガン含む
- 2 10YR4/3にぶい黄褐粘質土+粗～細砂 マンガン・炭含む
- 3 10YR5/2灰黄褐粘質土+粗砂 焼土含む

88柱穴

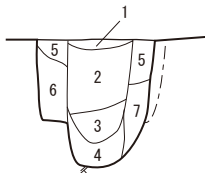
(N) (S) T.P. = 120.5m



- 1 10YR4/6褐粘質土 マンガン粒含む
- 2 10YR4/3にぶい黄褐粘質土マンガンやや多く含む
- 3 10YR4/3にぶい黄褐粘質土+細砂 マンガン含む
- 4 10YR4/4褐粘質土+細砂
- 5 10YRにぶい黄褐粘質土 マンガン含む

92柱穴

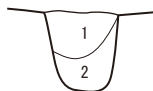
(W) (E) T.P. = 120.5m



- 1 2.5Y5/4黄褐粘質シルト 鉄分多く含む
- 2 2.5Y5/3黄褐粘質シルト 鉄分含む マンガン少量含む
- 3 2.5Y6/3にぶい黄粘質シルト 鉄分やや多く含む
- 4 2.5Y5/4黄褐粘質土+シルト+細砂 鉄分含む
- 5 2.5Y6/4にぶい黄シルト マンガン・鉄分含む
- 6 2.5Y4/6オリブ褐粘質シルト 鉄分全体に多く含む
- 7 2.5Y4/6オリブ褐粘質シルト+細砂 鉄分全体に少量含む

106柱穴

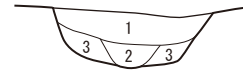
(W) (E) T.P. = 120.5m



- 1 2.5Y6/3にぶい黄粘質土 マンガン・鉄分含む
- 2 10YR5/4にぶい黄褐粘質シルト 鉄分含む

110柱穴

(N) (S) T.P. = 120.5m



- 1 10YR6/2灰黄褐粘質シルト 粗砂含む マンガン粒・鉄分やや多く含む
- 2 10YR5/3にぶい黄褐粘質土 マンガン小粒・鉄分含む
- 3 10YR5/2灰黄褐粘質土 マンガン小粒・鉄分含む



図 12 その他の遺構土層断面図

179溝 (図14 写真図版6・9・10) 調査区やや中央、F8-v7・8区に位置する。残存長1.80m以上、最大幅1.00mの南北方向の溝である。南側は調査区外に続くと思われるが、北側は収束しているの、土坑もしくは落ち込みの可能性もある。土師器皿(57)、底部に糸切り痕のある土師器皿(58)、瓦器椀(66)等が出土している。

187溝 (図13 写真図版7) 調査区中央、F8-q8・9、r9区に位置する南北方向の溝である。残存長4.60m以上、幅0.75~0.90m、深さ0.10~0.13mで、南から北方向に水が流れていたと考えられる溝である。T.P.+120.30mで検出した。188溝が埋没した後、掘削されて溝として使用されたと考えられる。埋土は、細砂混じりのにぶい黄褐色粘質土に中層として粗砂混じりの褐色粘質土を含む。鎌倉時代から室町時代の土師器皿、瓦器椀等が出土したが、細片のため図化はできなかった。

188溝 (図13 写真図版7・10) 調査区中央、F8-s7、r7・8、q8・9、p9・10区に位置する東西方向の溝である。残存長15.00m以上、幅0.70~1.00m、深さ0.20~0.30mの、南東から北西方向に水が流れていた溝である。埋土は、上層が砂混じりのにぶい黄褐色粘質土、下層が砂混じりの黄褐色粘質シルトである。鎌倉時代から室町時代の土師器皿、瓦器椀等が出土したが、細片のため図化はできなかった。底部から縄文時代のサヌカイト製打製無茎石鏃(S10)が出土しているが、埋没過程で混入したものと考えられる。この188溝が埋没した後、187

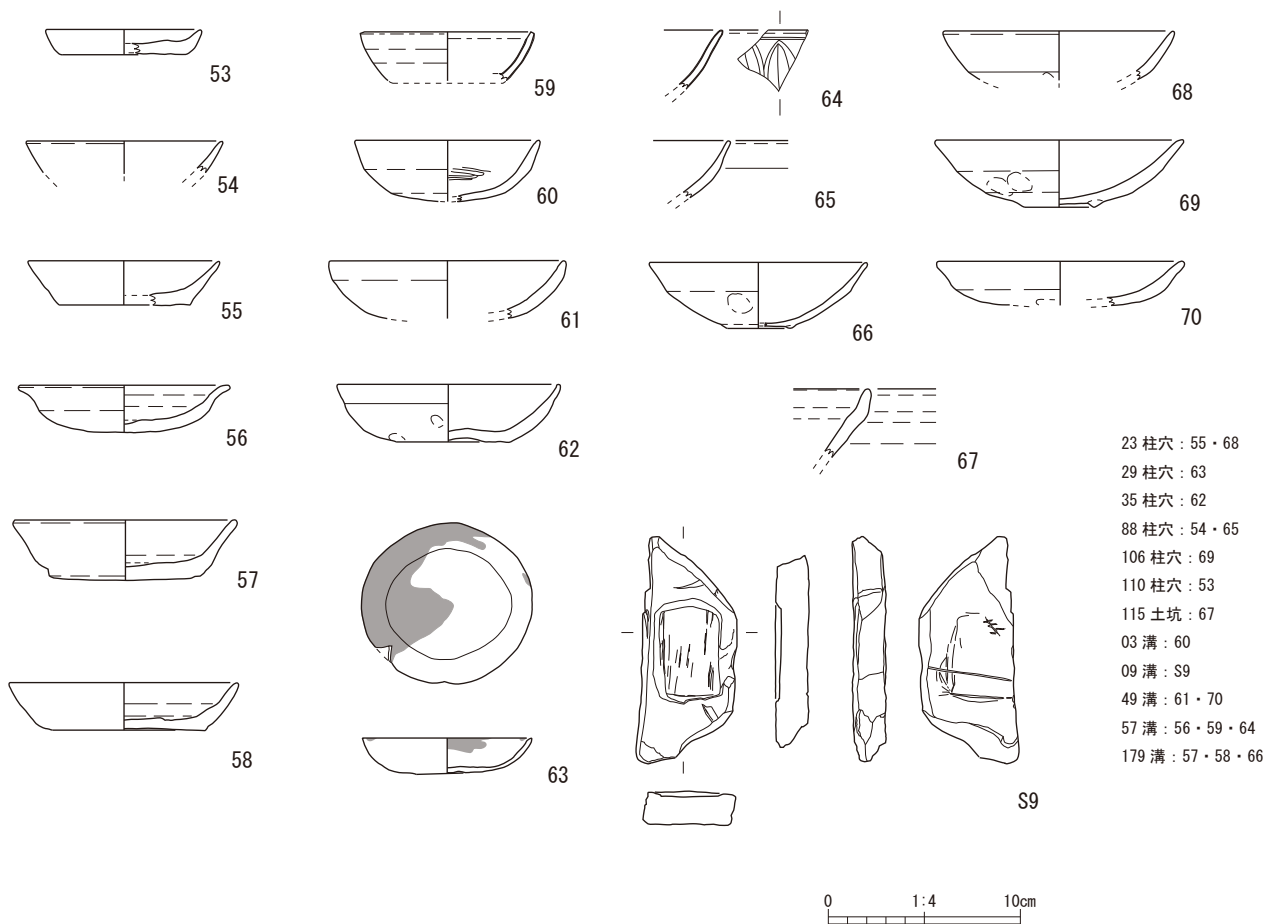


図14 その他の遺構内出土遺物実測図

溝が新たに掘削された。

遺物 (図6・11・14 写真図版8～10) 遺構内から出土した遺物については、柱穴、土坑、溝から須恵器、土師器、瓦器、中国製磁器、石器、石製品が出土した。

29柱穴から灯明皿と見られる土師器皿(63)、35柱穴から土師器皿(62)が、いずれも完形の土師器皿が底部近くで出土しており、何らかの地鎮に関わるものの可能性もある。9溝では、結晶片岩製の硯(S9)が出土した。長さ12cm、幅6cmの平面形が台形の板石を使用している。中央に墨池(海)として削って窪ませている。57溝の埋土からは、中国製白磁皿(59)が出土している。58土坑から出土した口縁端部の釉を口禿げした白磁皿(43)と同様のものと思われる。

遺物包含層から出土したものでは、第1～2層、第2層、第3層上面から、土師器皿、瓦器碗、青磁碗、白磁皿等を取り上げた。

特に、遺構面である第3層上面を精査中に、土師器皿を灯明皿に使用したもの(1)、土師器皿(2・3)、瓦器碗(14～17)といった日常雑器の中から、中国製青磁鎬蓮弁文の碗(7～11)の破片、白磁皿の口縁部と底部が出土した。縄文時代のサヌカイト製打製無茎石鏃(S1)が1点出土しているが、混入品と思われる。

第1～2層の遺物包含層中からも、土師器皿(22～30)や瓦器碗(31～33)に混じって、平たい楕円形の石の上下端部を打ち欠いて紐掛け部としている石錘(S2)や縄文時代のサヌカイト製打製有茎柳葉形石鏃(S4)、砥石(S3)等が出土している。

第5章 まとめ

今回の調査においては、掘立柱建物跡1棟、建物を構成するものと認定できなかった多数の柱穴、多くの中世土器・中国製磁器・滑石製石鍋が出土した土坑1基、焼土や炭を多く含む土坑1基、その他の多くの土坑、溝8条等を確認できた。

入郷遺跡は、縄文時代後期のサヌカイト製石鏃等の散布地として知られていたが、これらの遺構や遺物より新たに鎌倉時代から室町時代の集落関連遺構が展開することが確認された。調査区外にも、掘立柱建物跡や溝等の遺構が続くとみられることから、遺構が展開する範囲はさらに広がるものと思われる。

調査区西側で確認された18土坑と58土坑は、焼土や炭、灰混じりの埋土の中から、生活雑器である土師器皿、瓦器碗、土師器羽釜の破片が多く出土した。出土した遺物は完形に近いものも多く、土坑の底部と底部から0.1mほど上の地点で遺物の出土が集中したことから、周辺に居住していた人々により形成された廃棄土坑であると思われる。

遺構や遺物包含層から、複数の中国製青磁碗や白磁皿、温石に転用した滑石製石鍋等が出土したことにより、一般的な集落ではなく、高野山や慈尊院との関わりのある比較的身分の高い人々の集落であった可能性がある。

【参考文献】

- 和歌山井堰研究会編(2002)「紀ノ川流域堤防井堰等調査報告書I(橋本市・伊都郡編)」
- 九度山町史編纂委員会編(2009)「九度山町史 通史編」
- 和歌山県教育委員会(2020.3)「和歌山県埋蔵文化財調査年報一令和2年度一」

表1 出土遺物観察表(土器)

法量の()内は復元した大きさ 色調の内・外・断は「面」を省略している。色調は土色帖を基にし、マンセル記号を省略している

報告書番号	図・写真図版番号	実測番号	登録番号	地区		遺構層位	種類器種	法量(cm)			残存率	形態・技法	胎土	焼成	色調	備考
								口径	高さ	底径						
1	図6 写真図版8	61	4	G8	a・b6~8	第3層上面	土師器 皿	(8.1)	1.5	(5.2)	50%	磨滅のため調整不明瞭、内面うすくス付着	密 1.5mm以下の白色・赤色酸化粒・片岩少量含む	良好	内)黄灰・灰白 外)断)灰白	反転復元 灯明皿 13世紀後半から 14世紀初め
2	図6 写真図版8	36	108	G8	a6・7 b6・7	(19~21周辺) 第3層上面	土師器 皿	(8.2)	1.4	(6.3)	25%	口縁部ヨコナデ、外面底部ユビオサエとナデ、内面底部工具によるナデが、磨滅のため調整不明瞭	密 最大2mm位のチャート微量、細かい赤色酸化粒少量含む	良好	内・外)断)灰白	反転復元 13世紀後半から 14世紀初め
3	図6 写真図版8	54	379	F8	s・q9・10	第3層上面	土師器 皿	(12.0)	3.2	8.1	70%	底部回転糸切り痕、磨滅のため調整不明瞭	密	良好	内)灰白 外)浅黄橙 断)橙	一部反転復元 13世紀
4	図6 写真図版8	49	105	G8	a6・5	(14・15・16 周辺) 第3層上面	土師器 皿	(12.0)	(2.3)	-	5%以下	口縁部ヨコナデ、内外面指オサエとナデ	密 1~4mm位のチャート少量含む	良好	内・外)断)灰白	反転復元 13世紀
5	図6 写真図版8	11	2	G8	d・c5・6	第3層上面	土師器 皿	(12.3)	2.9	(8.0)	20%	口縁部ヨコナデ、外面ユビオサエとナデ、外面底部回転糸切り痕、内面指オサエとナデ	密 細かい赤色酸化粒少量含む	良好	内)断)橙 外)にぶい橙	反転復元 13世紀
6	図6 写真図版8	29	10	G8	a5~7 b5~7	第3層上面	青磁 小碗	(9.2)	(3.1)	-	20%	内外面の釉が剥離	密	良好	釉)オリブ灰 ~灰黄 断)灰白	反転復元 14世紀
7	図6 写真図版8	16	107	G8	a・b6	(18・19周辺) 第3層上面	青磁 碗	(16.0)	(2.6)	-	5%以下	外面:縞蓮弁文	密	良好	釉)灰オリーブ 断)灰白	反転復元 13世紀後半から 14世紀前半
8	図6 写真図版8	21	3	G8	d5・6 c5・6	第3層上面	青磁 碗	(16.0)	(3.5)	-	5%以下	外面:縞蓮弁文	密	良好	釉)オリブ灰 断)灰白	反転復元 13世紀後半から 14世紀前半
9	図6 写真図版8	20	3	G8	d5・6 c5・6	第3層上面	青磁 碗	(16.0)	(5.0)	-	5%以下	外面:縞蓮弁文、二次焼成を受けている	密	良好	釉)灰~灰白 断)灰白~にぶい 橙	反転復元 13世紀後半から 14世紀前半
10	図6 写真図版8	41	10	G8	a5~7 b5~7	第3層上面	青磁 碗	-	(2.2)	-	5%以下	外面:縞蓮弁文	密	良好	釉)オリブ灰 断)灰白	13世紀後半から 14世紀前半
11	図6 写真図版8	43	62	G8	c6・5	第3層上面	青磁 碗	-	(2.4)	-	5%以下	外面:縞蓮弁文	密	良好	釉)オリブ灰 断)灰白	13世紀後半から 14世紀前半
12	図6 写真図版8	32	76	F8	o9・m9	第3層上面	白磁 皿	(5.7)	(2.6)	-	5%以下	口縁部釉剥離	密	良好	釉)露胎・断)灰白	反転復元 13世紀後半から 14世紀前半
13	図6 写真図版8	22	3	G8	d5・6 c5・6	第3層上面	白磁 皿	-	(0.9)	(5.5)	底部 30%	外面底部露胎	密	良好	釉)断)灰白 露胎)にぶい黄橙	反転復元 13世紀後半から 14世紀前半
14	図6 写真図版8	12	2	G8	d・c5・6	第3層上面	瓦器 碗	-	(3.2)	-	5%以下	口縁部ヨコナデ、外面ユビオサエとナデ、内面ヘラミガキが、磨滅のため調整不明瞭	密	良好	内)灰 外)断)灰白	
15	図6 写真図版8	35	108	G8	a6・7 b6・7	(19~21周辺) 第3層上面	瓦器 碗	(11.1)	(2.2)	-	口縁部 10%	口縁部ヨコナデ、外面ユビオサエとナデ、二次焼成のため変色、磨滅のため調整不明瞭	密	軟	内)褐灰~灰黄 外)灰白~明褐 灰~褐灰 断)褐灰	反転復元
16	図6 写真図版8	15	70	F8	t・s7・9	第3層上面	瓦器 碗	(12.0)	(2.6)	-	5%以下	口縁部ヨコナデ、外面ユビオサエとナデ、内面ヘラミガキ、磨滅のため調整不明瞭	密 細かい白色砂粒中量含む	良好	内・外)灰~暗灰 断)灰白	反転復元
17	図6 写真図版8	33	76	F8	o9・m9	第3層上面	瓦器 碗	(14.0)	(3.0)	-	5%以下	口縁部ヨコナデ、外面ユビオサエとナデ、内面ヘラミガキが、磨滅のため調整不明瞭	密	良好	内・外)灰 断)灰白	反転復元
18	図6 写真図版8	56	37	F8	l10・11 m10・11	第3層上面	土師器 土釜	-	(2.1)	-	5%以下	ヨコナデ	密 1mm位の石英・チャート多量含む	良好	内・外)断) にぶい黄橙	
19	図6 写真図版8	30	67	G8	a6・b6	第3層上面	東播系須 恵器 控鉢	-	(2.8)	-	5%以下	回転ナデ、口縁部自然釉付着	密 1~2mmの黒色粒少量含む	良好	内)断)灰 外)灰~暗灰	
20	図6 写真図版8	68	12	F8	r7	第3層上面	土師器 土釜	(26.1)	(2.2)	-	5%以下	口縁部ヨコナデ	粗 1.5mm以下の灰色・赤色酸化粒多量含む	良好	内)にぶい黄橙 外)断)にぶい橙	反転復元
21	図6 写真図版8	31	76	F8	o9・m9	第3層上面	東播系須 恵器 控鉢	(26.0)	(3.7)	-	5%以下	回転ナデ	密 細かい白色砂粒少量含む	良好	内)断)灰白 外)灰白~灰	反転復元
22	図6 写真図版8	73	309	F8	u7 (v7含む)	第2層	土師器 皿	(8.6)	1.3	(6.1)	25%	口縁部~底部ナデがハケか、内面ス付着か	密 2mm以下の赤色酸化粒少量含む	良好	内・外)にぶい橙 断)橙	反転復元 灯明皿
23	図6 写真図版8	7	41	F8	o10・h10	第2層	土師器 皿	(9.0)	(1.5)	(6.6)	口縁部 15.6%	口縁部ヨコナデ、外面底部回転糸切り痕、内面底部ナデ	やや密 2mm以上の黒色粒少量含む	良好	内・外)断)橙	反転復元
24	図6 写真図版8	23	20	F8	t7・s7	北壁 第1~2層中	土師器 皿	-	(1.0)	(9.8)	底部 15%	外面ナデ、外面底部糸切り痕(回転)か、内面ナデ	密 細かい赤色酸化粒少量含む	良好	内・外)断) 浅黄橙	反転復元
25	図6 写真図版8	27	58	F8	i12・13	南側溝 第2層	土師器 皿	(10.4)	1.6	(9.0)	10%	口縁部ヨコナデ、内外面ユビオサエとナデ	密 1~3mmのチャート微量、細かい白色砂粒少量含む	良好	内)断)にぶい黄橙 外)にぶい黄橙 ~にぶい橙	反転復元
26	図6 写真図版9	24	58	F8	i12・13	南側溝 第2層	土師器 皿	(10.0)	1.4	(7.0)	25%	口縁部、内面回転ナデか、外面底部回転糸切り痕	密	良好	内・外)断)橙	反転復元
27	図6 写真図版9	75	318	F8	q9	下層確認トノリ 第3層上面	土師器 皿	(12.1)	2.3	-	50%	口縁部ヨコナデ、内面底部ナデ、全体的にス付着	粗 4mm位のチャートと1.5mm以下の赤色酸化粒多量含む、雲母やや多く含む	良好	内)褐灰 外)断)にぶい橙	反転復元 灯明皿
28	図6 写真図版9	74	309	F8	u7 (v7含む)	第2層	瓦器 碗	(10.3)	(3.0)	-	10%	外面口縁部~体部ヨコナデ、外面体部ナデとユビオサエ、内面ミガキ	密	やや軟	内)暗灰・灰白 外)暗灰・灰黄 断)灰白	反転復元 13世紀後半から 14世紀前半
29	図6 写真図版9	72	309	F8	u7 (v7含む)	第2層	瓦器 碗	(13.1)	(2.9)	-	10%	口縁部ヨコナデ、外面体部ユビオサエ、内面磨滅のため調整不明瞭	密 0.5mm以下の黒色粒微量含む	良好	内・外)暗灰 断)灰白	反転復元 13世紀
30	図6 写真図版9	79	318	F8	q9	下層確認トノリ 第3層上面	瓦器 碗	(13.7)	(3.7)	-	15%	口縁部ヨコナデ、外面体部ユビオサエ後ナデ、内外面磨滅のため調整不明瞭	密	やや軟	内・外)灰 断)灰白	反転復元 13世紀
31	図6 写真図版9	26	58	F8	i12・13	南側溝 第3層上面	瓦器 碗	(14.0)	(2.5)	-	5%以下	口縁部ヨコナデ、外面ユビオサエとナデ、内面ヘラミガキが、磨滅のため調整不明瞭	密 1~2mmの黒色粒微量含む	良好	内・外)灰白~暗 灰 断)灰白~灰黄 橙	反転復元 13世紀

報告書 番号	図・ 写真図版 番号	実測 番号	登録 番号	地区		遺構 層位	種類 器種	法 量 (cm)			残存率	形態・技法	胎 土	焼成	色 調	備 考
								口径	高さ	底径						
32	図6 写真図版9	13	29	F8	p-q8-9	第1~2層	瓦器 椀	(14.0)	(2.8)	-	□縁部 10%	□縁部ヨコナデ、外面ユビオ サエとナデ、内面ヘラミガキ か、磨滅のため調整不明瞭	密	良好	内・外 断)灰白	反転復元
33	図6 写真図版9	66	316	F8	q-r7-8	下層確認 第3層上面	瓦器 椀	(13.4)	3.2	(3.7)	25%	外面□縁部~底部ユビオサエ とナデ、高台の一部欠損貼付 よわい	やや粗 4mm以下 の灰色石・白色粒多 量含む	良好	内)暗灰 外)黒 断)灰白	反転復元 13世紀後半から 14世紀初め
34	図6 写真図版9	25	58	F8	i12-13	南側溝 第3層上面	瓦器 椀	-	(3.3)	-	5%以下	□縁部ヨコナデ、外面ユビオ サエとナデ、内面ヘラミガキ か、磨滅のため調整不明瞭	密	良好	内・外 断)灰白	13世紀後半から 14世紀初め
35	図6 写真図版9	14	47	F8	p8-o8	北壁 第1~3 層上面	東播系須 恵器 控鉢	(27.0)	(4.4)	-	5%以下	回転ナデ	密 細かい白色砂粒 中量含む	良好	内・断)灰 外)灰白~灰	反転復元 13世紀
36	図11 写真図版9	4	372	G8	d6	18土坑	土師器 小皿	(8.6)	(1.6)	(7.0)	31%	□縁部ヨコナデ、外底面ヘラ ケズリ後ナデ、内底面ナデ	やや密 1mm以下の 赤色粒と3mm以下の 黒色粒少量含む	良好	内・断)橙 外)にぶい橙	
37	図11 写真図版9	2	282	G8	a6	58土坑	土師器 小皿	(9.0)	(1.6)	(7.4)	41%	□縁部ヨコナデ、内面底部ナ デとユビオサエ	やや密 2種類の粘 土を混合、1mm以下 の赤色酸化粒・黒色 粒含む	良好	内)浅黄橙 外)橙・浅黄橙 断)にぶい橙	反転復元
38	図11 写真図版9	8	260	G8	a6	58土坑	土師器 小皿	(8.6)	1.2	(6.2)	22%	□縁部ヨコナデ、内外面底部 ナデ	やや密 1~2mmの 白色粒・黒色粒少 量含む	良好	内・外・断)灰白	反転復元
39	図11 写真図版9	60	223	G8	a6	58土坑	土師器 皿	(10.6)	2.9	-	40%	□縁部ヨコナデ、磨滅のため 調整不明瞭	密	良好	内・外・断)灰白	一部反転復元
40	図11 写真図版9	10	260	G8	a6	58土坑	土師器 皿	(12.0)	(3.4)	(4.6)	18%	□縁部ヨコナデ、外面ナデと ユビオサエ、内面ユビオサエ、 内外面ともにつすくス付着	密 2mm以下の赤色 粒少量含む	良好	内・断)褐灰 外)にぶい橙	反転復元
41	図11 写真図版9	62	269 (108-118-224)	G8	a6	58土坑	常滑焼 壺	(5.3)	(5.5)	-	□縁部 30%	外面□縁部回転ナデ・自然釉 付着、内面頸部シボリ痕	粗 1mm以下の白 色酸化還元粒多 量含む	やや軟	内・断)灰 外)暗灰 自然釉 暗オリブ灰	反転復元
42	図11 写真図版9	63	283	G8	a6	58土坑	常滑焼 壺	-	(7.3)	(20.1)	5%	外面体部板状工具によるケズ リ、外面体部~底部口ロに よるナデ・ハケ後ユビオサエ、 内面体部ハケとナデ、内面体 部~底部口ロによるナデ・ 自然釉	やや粗 1.5mm以下 の白色粒・酸化還元 粒多量含む	良好	内・外)灰 断)暗赤褐	反転復元
43	図11 写真図版9	50	367 (285・ 224・123 ・343)	G8	a6	58土坑	白磁 皿	(8.9)	2.7	(5.2)	50%	□縁部口ろ剥げ、外底部露胎	密	良好	釉・断)灰白 露胎)灰白・にぶい黄 褐・にぶい黄橙	反転復元
44	図11 写真図版9	65	343	G8	a-b6	58土坑	土師器 皿	(8.5)	1.3	(6.3)	40%	内面うすくス付着、内外面 底部磨滅のため器厚うすい、 内外面磨滅のため調整不明瞭	やや粗 2mm以下の 白色・灰褐・褐色粒多 量含む	良好	内・外・断)灰白	反転復元
45	図11 写真図版9	1	281	G8	a6	58土坑	土師器 皿	9.0	1.5	-	62.5%	□縁部ヨコナデ、内外面ナデ、 内面うすくス付着あり	密 1mm以下の赤色 酸化粒を少量含む	良好	内)浅黄橙 外)灰白 断)にぶい橙	灯明皿
46	図11 写真図版9	5	370	G8	d6	18土坑	瓦器 椀	12.2	3.6	4.0	87.5%	□縁部ヨコナデ、外面ユビオ サエ、外底面ヨコナデ・ナデ、 内面ヘラミガキか、内外面と もに磨滅により調整不明瞭	やや密 4mm以下の 白色粒少量含む	良好	内)灰白 外)灰黄 断)黄灰	
47	図11 写真図版10	64	374	G8	a6	58土坑	瓦器 椀	-	(1.1)	2.4	8%	高台の一部つぶれあり貼付弱 い、内外面磨滅のため調整不 明瞭	密	良好	内)暗灰 外)断)灰白	一部反転復元
48	図11 写真図版10	19	118	G8	a6	18土坑	瓦器 椀	(14.0)	3.0	高台 (5.3)	10%	□縁部ヨコナデ、外面ユビオ サエ、貼付高台粗い、内面ヘ ラミガキか、磨滅のため調整 不明瞭	密 細かい白色砂粒 少量含む	軟	内)灰白~灰 外・断)灰白	反転復元 13世紀後半から 14世紀初め
49	図11 写真図版9	51	374 (335-348)	G8	a6	58土坑	瓦器 椀	12.1	3.7	(3.5)	90%	□縁部ヨコナデ、外面ユビオ サエ、磨滅のため調整不明瞭、 見込み螺旋形暗文	密 1mm以下の灰色 粒を微量含む	良好	内)黒 外)暗灰 断)灰白	13世紀後半から 14世紀初め
50	図11 写真図版9	80	373	G8	a6	58土坑	土師器 羽釜	(28.4)	(13.4)	-	□縁部 ~体部 30%	□縁部・頸部ヨコナデ、外面 体部ナデとユビオサエ、頸部 摩耗多い、内面体部ハケ状工 具によるナデとユビオサエ、 外面体部と内面にス付着	粗 1mm大の黒 色・灰色・褐色粒多 量含む	良好	内)灰褐・黒 外)灰褐 断)にぶい赤褐	反転復元
51	図11	52	371 (331-347-342)	G8	b6	18土坑	東播系須 恵器 控鉢	(18.2)	7.7	(7.7)	30%	口ロによるナデ、底部回転 糸切り痕	やや粗 2.5mm以 下の白色・黒色粒多 量含む	やや軟	内)灰 外・断)灰・にぶい褐	反転復元 13世紀
52	図11	17	284 139-224 341-262 259-138	G8	a6	58土坑	東播系須 恵器 控鉢	(27.0)	(6.7)	-	20%	□縁部・外面回転ナデ、内面 板状工具によるナデか	密 細かい白色砂粒 少量含む	良好	内・断)灰 外)灰~暗灰	反転復元 13世紀
53	図14 写真図版9	76	360	F8	o9	110・114土坑	土師器 皿	(8.0)	1.3	(6.4)	25%	□縁部ヨコナデ、外面底部ナ デ	密 3mm大の片岩と 1mm以下の白色・灰 色粒少量含む	良好	内・外)にぶい橙 断)橙	反転復元
54	図14	59	166	F8	q9	88柱穴	土師器 皿	(10.1)	(1.7)	-	□縁部 20%	ヨコナデ、二次焼成か	密 細かい白色砂粒 少量含む	良好	内)灰白~にぶい橙 外)灰黄~にぶい橙 断)灰黄	反転復元
55	図14 写真図版9	9	258	F8	y7	23柱穴	土師器 皿	(10.0)	2.3	(6.8)	12.5%	□縁部ヨコナデ、内外面底部 ナデ	やや密 直径2mm 以下の黒色粒少 量含む	良好	内・外・断)橙	反転復元 灯明皿
56	図14 写真図版9	81	139	G8	a6	57溝	土師器 皿	(10.7)	2.4	-	40%	内面と外面□縁部ヨコナデ、 外面底部ユビオサエ後ナデ	密 1mm大の赤色酸 化粒微量含む	良好	内・断)にぶい橙 外)にぶい黄橙	反転復元
57	図14 写真図版9	78	301	F8	v8	179溝	土師器 皿	(11.3)	3.1	(7.8)	75%	磨滅のため調整不明瞭	密 2.5mm大の褐色 石と1mm以下の赤色 酸化粒少量含む	良好	内・外・断)橙	一部反転復元
58	図14 写真図版10	77	301	F8	r8	179溝	土師器 皿	11.8	2.4	8.4	80%	外面底部回転糸切り痕、その 他ヨコナデ	密 1mm以下の赤 色酸化粒・黒色粒少 量含む	良好	内・外)橙	
59	図14 写真図版10	53	139	G8	a6	57溝	白磁 皿	(8.7)	(2.5)	-	□縁部 10%	□縁部口ろ剥げ	密	良好	釉)明緑灰 露胎)灰白・にぶい褐 断)灰白	反転復元

報告書 番号	図・ 写真図版 番号	実測 番号	登録 番号	地区		遺構 層位	種類 器種	法 量 (cm)			残存率	形態・技法	胎 土	焼成	色 調	備 考
								口径	高さ	底径						
60	図14 写真図版10	57	97 +94	G8	c-d5-6	3溝	土師器 皿	(9.5)	(3.2)	-	30%	外面口縁部ヨコナデ、外面ナ デ、内面ミガキか、磨滅のた め調整不明瞭	密 1mm大の赤色酸 化粒微量含む	良好	内にぶい黄 橙・にぶい橙 外・断)にぶい橙	反転復元
61	図14 写真図版10	69	146	F8	v7	49溝	土師器 皿	(12.1)	(3.0)	-	15%	外面ナデとユビオサエ、内外 面磨滅のため調整不明瞭	密	良好	内にぶい橙 外・断)浅黄橙	反転復元
62	図14 写真図版10	6	369+133	F8	y7	35柱穴	土師器 皿	(11.6)	(3.0)	(5.8)	口縁部 10%	口縁部ヨコナデ、外面ユビオ サエ、内面ナデ	やや粗 3mm程の白 色粒と2mm以下の赤 色粒がみられる	良好	内・外)浅黄橙 断)にぶい橙	一部反転復元
63	図14 写真図版10	3	368	F8	x7	29柱穴	土師器 皿	8.8	1.9	-	87.5%	口縁部ヨコナデ、外面底部ユ ビオサエ、内面底部ナデ、内 面スス付着あり	密 1mm以下の赤色 粒少量含む	良好	内・断)灰白 外)にぶい黄橙	灯明皿
64	図14 写真図版10	55	139	G8	a6	57溝	青磁 碗	-	(3.1)	-	5%以下	外面: 竇連弁文	密	良好	軸)オリーブ灰 断)灰白	
65	図14 写真図版10	58	166	F8	q9	88柱穴	瓦器 皿	-	(3.0)	-	5%以下	口縁部ヨコナデ、外面ユビオ サエとナデ、内面へラミガキ か、磨滅のため調整不明瞭	密 細かい白色砂粒 中量含む	良好	内・外・断)灰白	
66	図14 写真図版10	82	302	F8	v7-8	179溝	瓦器 椀	(11.2)	3.4	(3.2)	30%	口縁部ヨコナデ、外面体部ユ ビオサエ、高台やや粗い、内 外面磨滅のため調整不明瞭	密 1mm大の灰色 粒微量	良好	内)暗灰 外・断)灰黄	反転復元
67	図14 写真図版10	18	192	F8	o9	115土坑	東播系須 恵器 控鉢	-	(3.6)	-	5%以下	回転ナデ	密 細かい白色砂粒 少量含む	良好	内・断・外)灰	13世紀
68	図14 写真図版10	28	258	F8	y7	23柱穴	瓦器 椀	(12.0)	(2.5)	-	口縁部 15%	口縁部ヨコナデ、外面ユビオ サエとナデ、内面へラミガキ か、磨滅のため調整不明瞭	密 1mm位の石英 量含む	やや軟?	内)灰～灰黄 外)暗灰 断)灰白	反転復元
69	図14 写真図版10	71	237	F8	o9	106柱穴	瓦器 椀	(12.8)	3.5	(3.6)	25%	外面口縁部～体部ユビオサエ 後ナデ、外面体部ユビオサエ、 内外面磨滅のため調整不明瞭	密	良好	内・外)暗灰 断)灰白	反転復元 13世紀
70	図14 写真図版10	70	147	F8	u-v7	49溝	瓦器 皿	(12.6)	(2.3)	-	20%	口縁部ヨコナデ、外面体部ナ デとユビオサエ、内面磨滅の ため調整不明瞭	密 1mm以下の白色 粒・灰色粒微量含む	良好	内)灰 外)暗灰 断)灰白	一部反転復元
71	図8 写真図版10	67	354	G8	a5-6	16土坑	土師器 皿	(8.7)	1.8	(6.3)	25%	外面体部ヨコナデ、内外面磨 滅のため調整不明瞭、胎土に 自然系粘土混じる	密 1mm以下の赤色 酸化粒少量含む	良好	内・外・断)橙	反転復元

表2 出土遺物観察表 (石器・石製品)

法量の()内は復元した大きさ

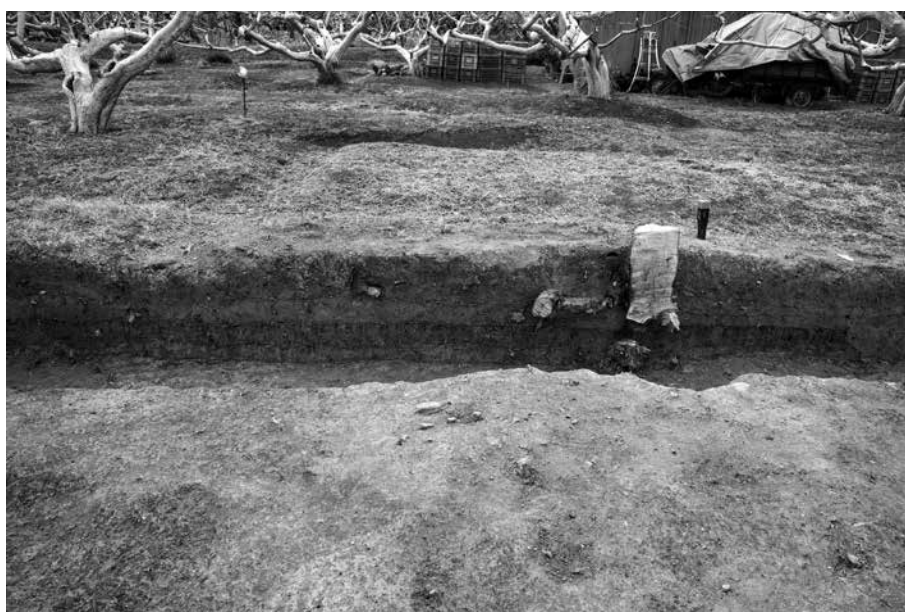
報告書 番号	図・ 写真図版 番号	実測 番号	登録 番号	地区		遺構 層位	種類 器種	法 量 (cm)			重量(g)	残存率	石材	形態・技法	備 考
								長さ	幅	厚さ					
S1	図6 写真図版10	38	4	G8	a6~8 b6~8	第3層上面	石製品 石鏃	(2.6)	(1.5)	0.25	0.70	80%	サヌカイト	サヌカイト製の打製無茎石鏃。一端が欠損。	縄文時代か
S2	図6 写真図版10	48	366	F8	q9	下層確認H/チ 第3層上面	石製品 石鏃	15.2	5.9	1.9	257.18	90%	片岩か	打欠石鏃。平たい石の上下に打ち欠いて紐掛けをつ くり出したもの。	縄文時代か
S3	図6 写真図版10	45	318	F8	q9	下層確認H/チ2 第3層上面	石製品 砥石	7.6	11.3	5.8	670.01	不明	砂岩か	断面が台形で不定形の砥石で砥面は1面のみ。一部に 焼成をうけて赤変し、大部分が欠損していることから全 体は不明。	
S4	図11 写真図版10	39	242	F8	p-q8	サ/ト/チ 第3層上面	石製品 石鏃	4.0	1.0	0.3	1.54	100%	サヌカイト	サヌカイト製の打製有茎柳葉形石鏃。	弥生時代か
S5	図11 写真図版10	37	279	G8	a6	58土坑	石製品 温石	(10.1)	(4.6)	-	157.94	100%	滑石	口縁部は直立し、体部外面に削り出された断面正台形の 窪部をもち、踵はやや下がる。滑石製羽釜型石鏃を温 石に再加工したもの。	13世紀
S6	図11 写真図版10	42	367	G8	a6	58土坑	石製品 温石	5.5	12.3	1.5	157.62	100%	滑石	石鏃の底部と思われるが、切り取られて詳細は不明。滑 石製石鏃を温石に再加工したもの。	
S7	図11 写真図版10	44	223	G8	a6	58土坑	石製品 砥石	(9.0)	3.8	3.1	179.62	不明	砂岩か	四角柱のうち、4面に砥ぎ痕が残存する。一部が欠損し 剥落していることから全体は不明。	
S8	図11 写真図版10	47	367	G8	a6	58土坑	石製品 砥石	7.6	11.2	4.5	457.29	不明	凝灰岩か	断面が長方形で不定形の砥石で砥面が2面。一部に焼 成痕があり、欠損していることから全体は不明。	
S9	図14 写真図版10	46	269	G8	c5	09溝	石製品 砥	11.8	5.2	1.7	171.13	100%	緑色片岩	平面が台形の緑色片岩の板石の中央に墨池を削り出し たもの。	
S10	図13 写真図版10	40	375	F8	q9	188溝	石製品 石鏃	1.5	1.9	0.2	0.38	100%	サヌカイト	サヌカイト製の打製無茎石鏃	縄文時代か



1. 調査区全景
(東から)



2. 南壁土層断面
(中央部・北から)



3. 南壁土層断面
(西部・北から)



1. 1 掘立柱建物跡
(北西から)



2. 60 柱穴
(1 掘立柱建物跡)
土層断面 (南から)

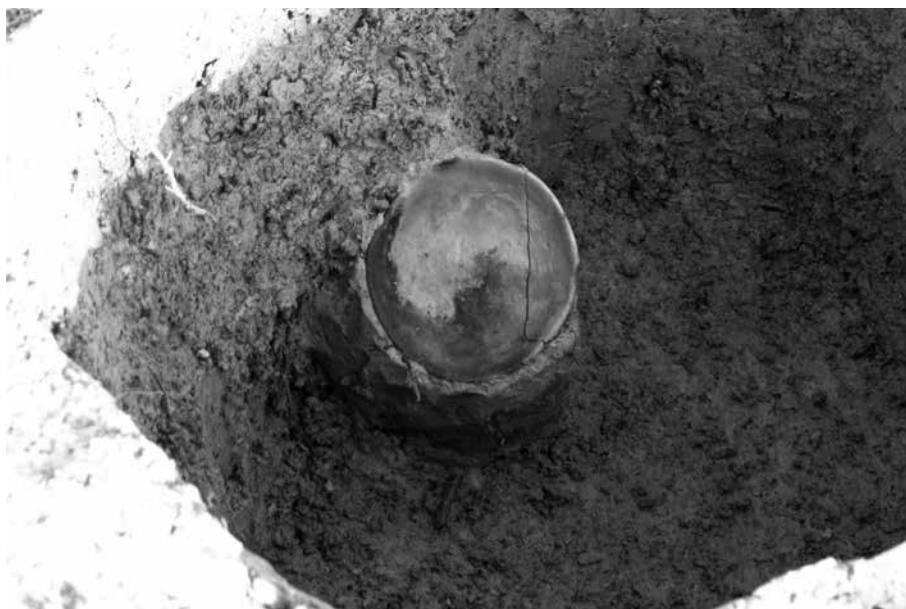


3. 70 柱穴
(1 掘立柱建物跡)
土層断面 (西から)

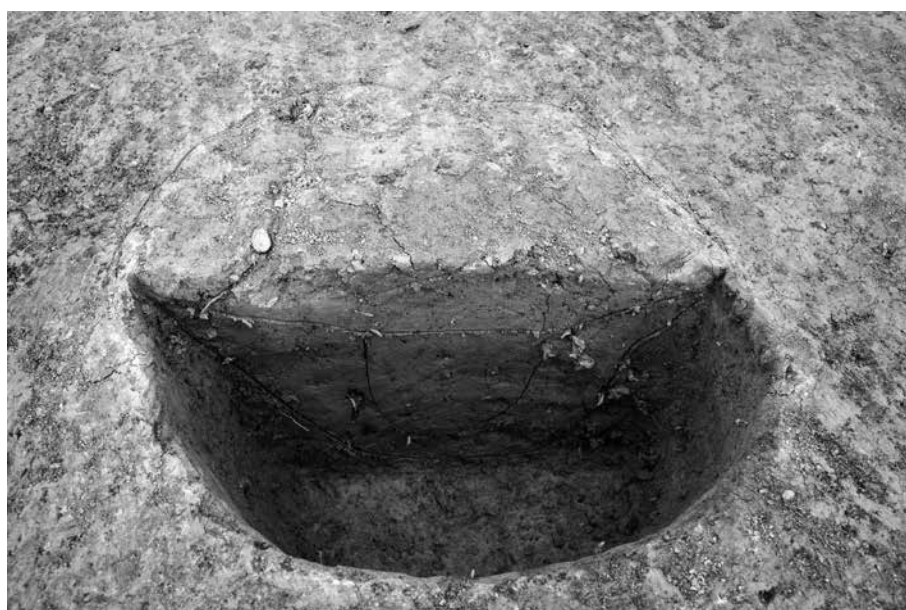
1. 35 柱穴内 土師器皿出土状況
(南から)

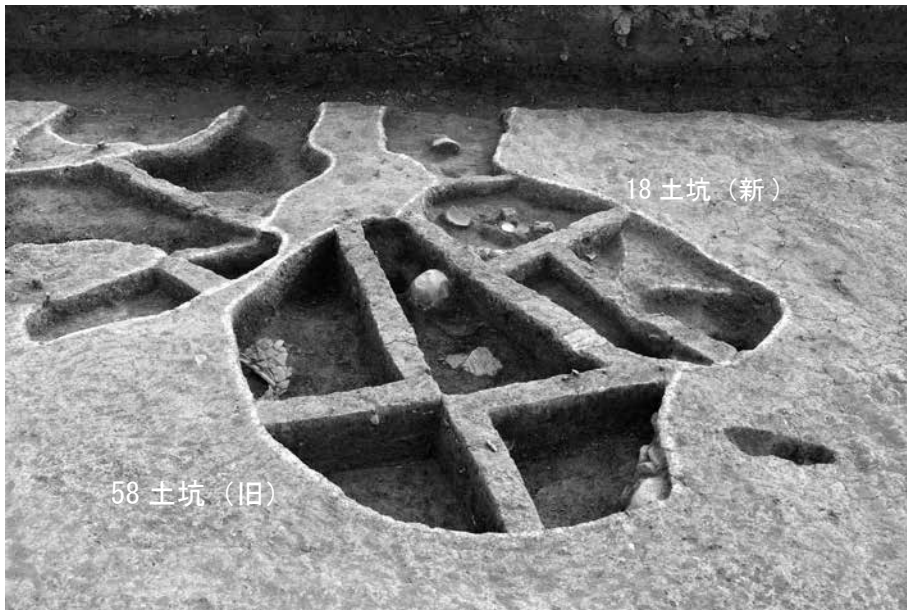


2. 29 柱穴内 土師器皿出土状況
(東から)



3. 29 柱穴土層断面
(南から)





1. 18・58 土坑内
遺物出土状況
(北から)



2. 18 土坑内
瓦器椀出土状況
(南から)



3. 18・58 土坑
完掘状況 (北から)



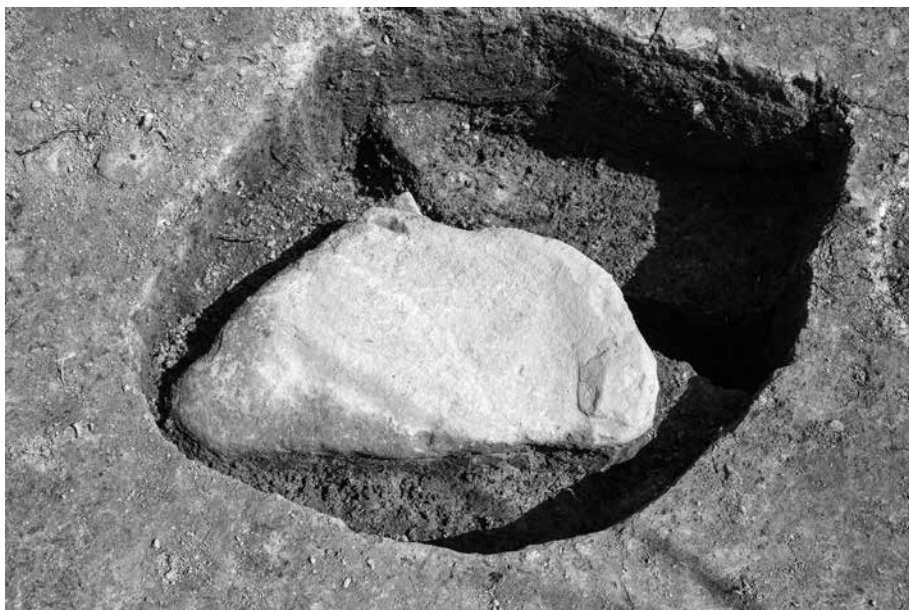
1. 調査区西部全景
(西から)



2. 58 土坑出土の
土師器羽釜 (50)
(南から)



3. 92 柱穴 土層断面
(南から)



1. 32 柱穴 石検出状況
(西から)



2. 141 溝・142 土坑
土層断面 (南から)



3. 179 溝 土層断面
(南から)



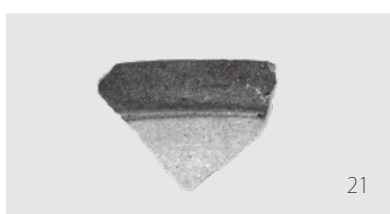
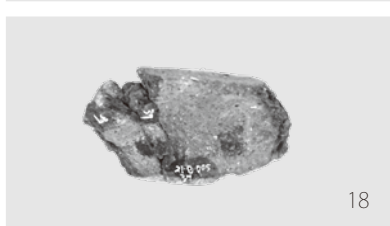
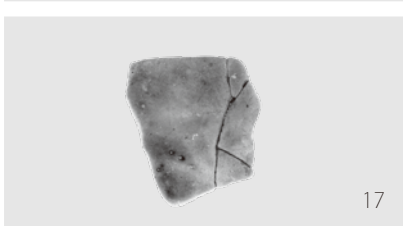
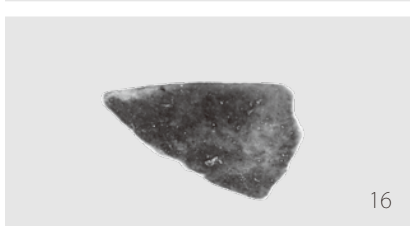
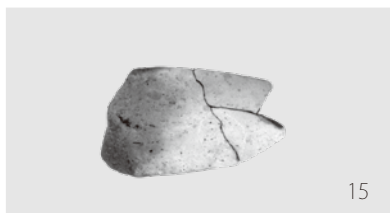
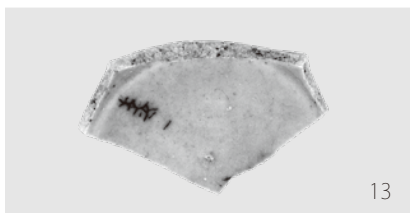
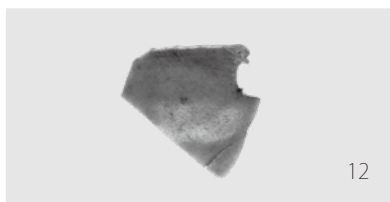
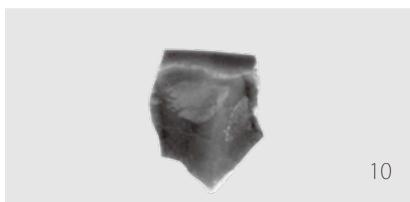
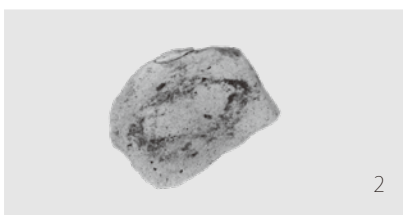
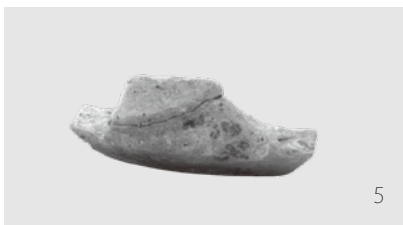
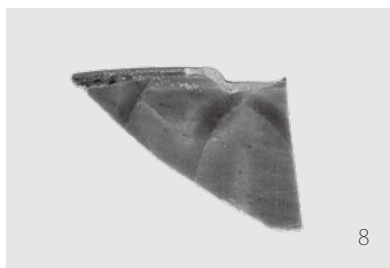
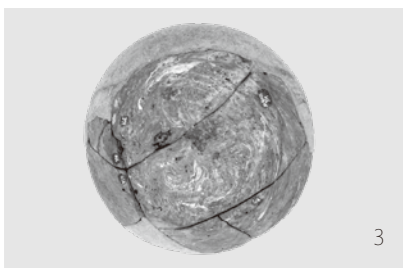
1. 187・188 溝 完掘状況
(南から)

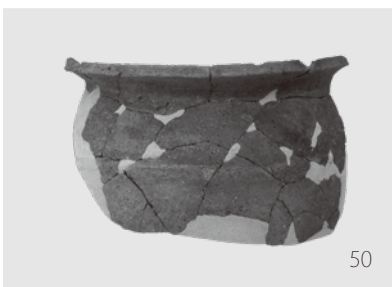
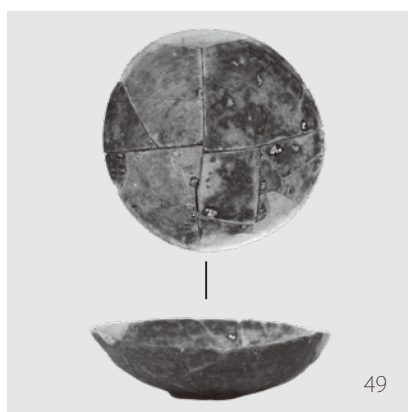
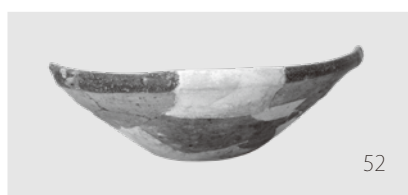
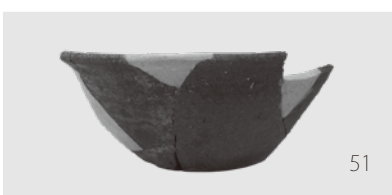
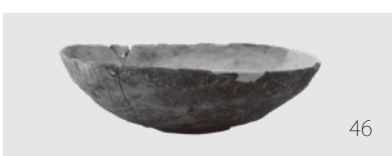
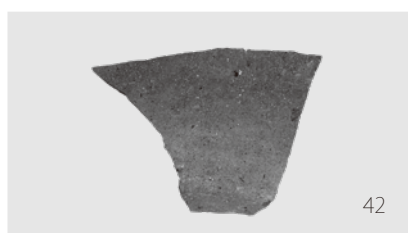
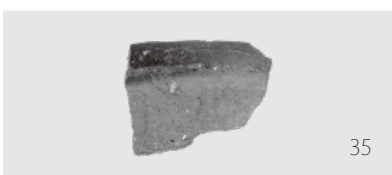
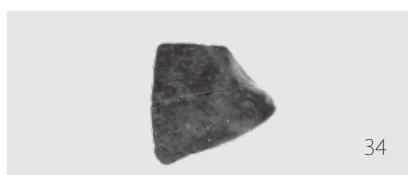
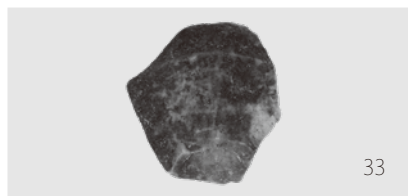
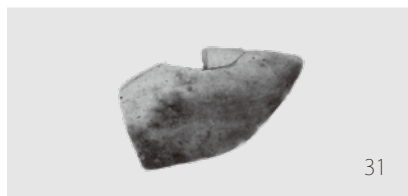
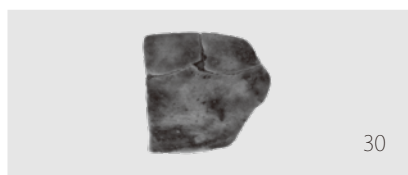
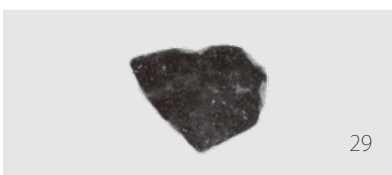
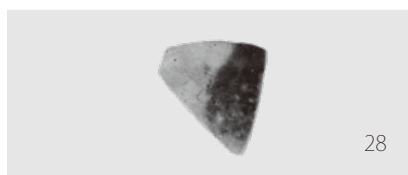


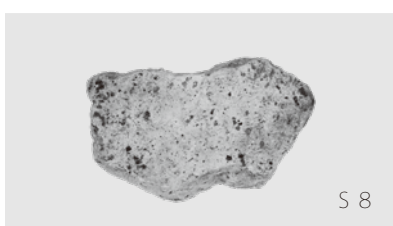
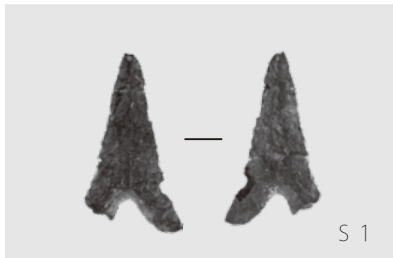
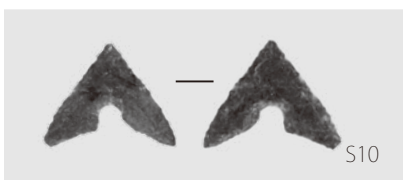
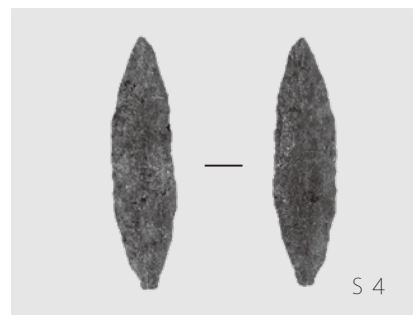
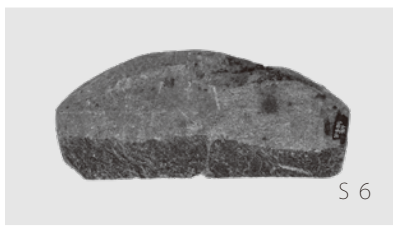
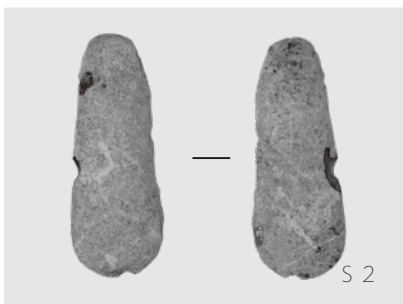
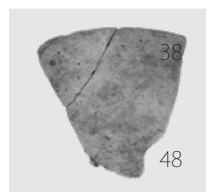
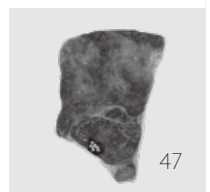
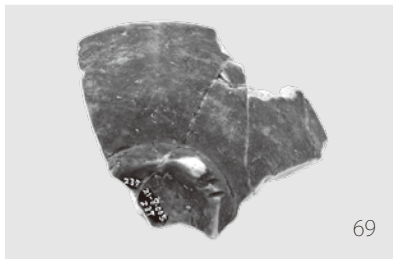
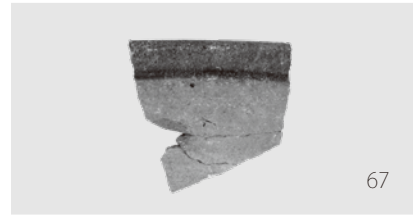
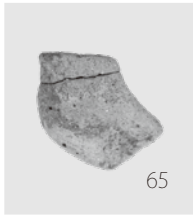
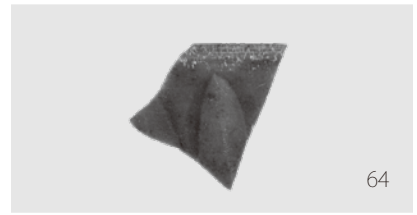
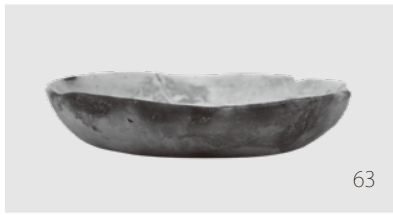
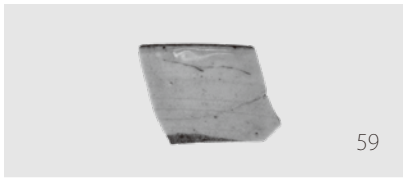
2. 187・188 溝 完掘状況
(西から)



3. 188 溝 土層断面
(西から)







報告書抄録

ふりがな	にゅうごういせき								
書名	入郷遺跡								
副書名	町道 156・176 号線改良工事に伴う発掘調査報告書								
巻次	――								
シリーズ名	――								
シリーズ番号	――								
編著者名	田之上裕子								
編集機関	公益財団法人 和歌山県文化財センター								
所在地	〒 640-8301 和歌山市岩橋 1263 番地の 1 TEL 073 - 472 - 3710								
発行年月日	西暦 2023 年 3 月 15 日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地		コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
			市町村	遺跡番号					
にゅうごういせき 入郷遺跡	わかやまけん 和歌山県 いとくぐんくどやまちょう 伊都郡九度山町 にゅうごう 入郷		303437	005	34° 17' 19"	135° 33' 34"	20220131 ～ 20220416	484.0 m ²	町道 156・ 176 号線改 良工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項	
入郷遺跡	散布地	中世	掘立柱建物跡・柱 穴・土坑・溝		須恵器・土師器・瓦器・中 国製磁器・石器・石製品			中世の集落関連遺構 と中国製青磁・白磁、 温石に再加工した滑 石製石鍋等が出土す る土坑を確認。	
要約	入郷遺跡は、縄文時代後期のサヌカイト製石鏃等の散布地として知られていたが、今回の調査において新たに鎌倉時代から室町時代の集落関連遺構が展開することが確認された。遺構内や遺物包含層から複数の中国製青磁碗や白磁皿、滑石製石鍋の破片が出土したことにより、一般的な集落ではなく、高野山や慈尊院との関わりのある比較的身分の高い人々の集落であった可能性がある。								

入郷遺跡

—町道 156・176 号線改良工事に伴う発掘調査報告書—

2023 年 3 月 15 日

編集・発行：公益財団法人和歌山県文化財センター
〒 640-8301 和歌山県和歌山市岩橋 1263 番地の 1
印刷・製本：白光印刷株式会社